

2022年度

社会福祉法人 育明会

事業報告書

横浜事業所

特別養護老人ホーム

レジデンシャル常盤台

- ・短期入所生活介護
- ・予防短期入所生活介護

目次

I	2022年度事業総括	2
	1. 財務	3
	2. 組織	4
	3. サービス	6
	4. 人材の育成	8
	5. 職員配置と勤務体制	12
	6. リスクマネジメント	12
	7. 事務管理体制	14
	8. 諸規定の遵守及び検討	14
	9. 物品の管理	14
	10. 預り金等の適正な保管・管理	15
	11. 防災対策及び施設の保全対策	15
	12. 委員会活動	16
	13. 援助サービス各論	16
	14. 行事・クラブ活動実施状況	31
	15. 地域連携	32
II	2022年度活動報告一覧	37
III	各委員会 各部署等の活動報告	41
I.	2022年度 事業報告	

横浜事業所（R 常盤台）は、2021年4月180床となった大規模施設の運営と新型コロナウイルス感染症対策に追われた1年でした。運営に当たって最大の課題であった“人材の確保と定着”については順調に推移いたしました。しかし、利用者の入退所に伴う多様な業務の増加、及び、新規事業受託が各部署に与えた影響には大きなものがありました。各部署間の連携や前向きで柔軟な対応等で乗り越えることができましたが、年間稼働率は80.1%となり稼働率目標95%は未達成となりました。

また、新型コロナウイルス感染症対応では、ご利用者、職員等の感染及び感染予防に努めました。発症例はありましたが何れも拡大することなく収束しています。

2021年度横浜市より受託した2件のコロナ対応型緊急ショートステイ事業に加え2023年1月より新たに陽性高齢者ショートステイ事業を受託し横浜市行政及び地域住民のニーズに応えてきました。

橋本文伸会長を始めとする常盤台北部自治会の皆様、有形無形のご支援をいただきました事に感謝を申し上げます。

施設サービスの細かな分野については以降の項目で報告します。

1. 財務

(1) 入居稼働率の状況

2022年度の年間入居稼働率は79.4%、短期入所事業の年間稼働率は91.5%で、特養入居と短期入所を合わせた年間総合稼働率は80.1%と、2022年度の目標であった95%を下回る事となった。

この要因としては、新型コロナウイルスの感染拡大により短期入所事業、特養入所事業共に大きな影響を受けた。また、開設12年を経た既存棟入居者の高齢化・重度化は著しく、それに伴う入院者数、入院日数の増加、“看取り”による退所利用者の増大、リカバリーの遅延、等が挙げられる。

(2) 適切な人事評価制度の運用

及び介護職員処遇改善加算制度に伴う賃金体系の確立

育明会人事考課制度に基づき、適切な人事考課を行い、評価に応じた定期昇給と賃金のベースアップも実施することができた。

介護職員については、新たに実施となったベースアップ加算を含め、介護職員処遇改善加算及び特定処遇改善加算による交付金の一部を本俸化するとともに、特定処遇改善加算については、介護職員以外の職員も含めて適切に支給した。

客観性、透明性を担保した賃金体系の確立は、職員にとって働きがいのある職場環境づくりに繋がっている。

(3) 法人事業計画に基づく財務諸表の健全化

新社会福祉法人会計基準に則り、健全かつ透明性のある財務管理を行った。また、決算書類のホームページ上への掲載をはじめ財務諸表の情報開示を行った。

(4) 緊急ショートステイ事業の受託 (P22～看護サービ課照)

2021年5月よりスタートした“横浜市高齢者緊急ショートステイ事業<新型コロナウイルス感染症対応型><横浜市高齢者退院支援緊急ショートステイ事業>”を今年度も受託。新に2023年1月より<横浜市陽性高齢者ショートステイ事業>を受託。感染リスクを負いながらも社会福祉法人の公益性という立場から横浜市の要請に応えることによって関係各機関や利用された方々やご家族から感謝の言葉を頂戴したことは地域社会に貢献したという事を実感した一年であった。

2. 組織

(1) 組織力の強化

2021年4月180床の大規模施設が誕生。その円滑な運営を図るべく2021年1月15日に大幅な人事異動を行うと同時に各職種毎に課長職を配置し、組織体制の構築と組織力の強化を図りながら運営にあたった。

理事長・横浜事業所、川崎事業所施設長・課長による月1回の合同課長会開催、統括施設長をはじめとする管理・監督職員で構成し運営会議 及び 副主任を加えた拡大管理職会議を毎月開催し、施設運営全般に関する議案について協議・検討を行い、情報の共有、課題解決への協働に努めた。

各種委員会の運営では、管理・監督職がスーパーバイザーを務め、組織横断的に委員を構成した。各委員会とも積極的に課題を抽出し、解決のためのアプローチを展開、確実に成果を残してきた。

(P41～各委員会による活動報告参照)

2月には施設内活動報告会“第10回 いいね！いいね！大会”を開催し、13の委員会等がエントリーし、その内一次審査を通過した8の委員会等がプレゼンテーションを行った。優秀な取り組みと発表を行った委員会は、かながわ高齢者福祉研究大会をはじめとする外部研究発表大会に出場することになっている。

第10回 いいね！いいね！大会の結果は次の通り。

演題	発表者	結果
臭いのない施設を取り戻そう	排泄ケア検討委員会	施設長賞 外部発表賞
常盤台にミシュランシェフ来る！	栄養食事委員会	理事長賞 優れていいね！賞 外部発表賞
10周年への「想い」	広報委員会	外部発表賞
改めましてSGK委員会です。	SGK委員会	最もいいね賞
ビアガーデン常盤台	行事委員会	結構いいね！賞

(2) セクショナリズムの排除

2021年1月15日の組織改正により新任された各課長を筆頭に、主任、副主任を配置し、ユニットケアの閉塞性やセクショナリズムを排除するために、定期的フロア異動を行った。このような体制整備は、当初の目的だけではなく、緊急事態の発生時や職員の病気や事故等でシフトに影響があった時には、速やかに応援体制を組むことを可能にする等、副次的な効果をもたらす事に繋がっ

た。

また、職員会議をはじめとする諸会議の定例開催、各種イベントや行事の開催を通して、職員同士の交流が促進されるよう努めた。

(3) 人材の確保とキャリアアップ

昨年度に引き続き、2022年度についても職員の確保は課題となっており、今年度も求人サイトの活用、横浜市福祉事業経営者会を始めとする関係各機関との連携強化等が、人材の確保に繋がった。個々の能力開発やキャリア形成を図るため、各種専門研修や資格取得研修への受講・受験を積極的に進めた。履歴書に記載できる資格を取得することにより、専門職としての自信が芽生え、高い就業意欲を持つことにも繋がっていると考えている。

- ・介護福祉士資格取得3名　・喀痰吸引等研修修了2名
- ・介護職員実務者研修修了5名

(4) 様々な形態での情報発信

ホームページとスタッフブログ等のインターネットを活用しての情報発信に取り組んだ。ご利用者向けには各ユニットとフロア中央の掲示板を活用しポスターや予定表、献立表等を掲示、ご家族向けには施設広報誌“常盤台便り”を毎月1回発行し、タイムリーな情報発信・提供に努めた。

常盤台便りの連載記事の「only one」の集大成として10年史を刊行し、ご利用者、ご家族、関係者に進呈と共にアンケートをいただいた。

「～何時も主役は入居者の方々で一人一人を大切にいただいている事が伝わってきます～」 「～夫は亡くなってしまったが10年史に名前が残っていた事が嬉しい～」等のお言葉を頂戴したことが大きな喜びであった。

また、園庭にある掲示板、地元自治会（常盤台北部自治会）の掲示板などを活用しての情報発信を行った。（巻末添付～常盤台便り参照）

(5) 組織としての人材育成

組織を構成する人材を組織内で育て、次の担い手としていく好循環人材育成に努めてきた。職制以外でも、日中業務における日勤統括や夜間業務における夜勤統括、委員会の委員長など、リーダー業務を担える人材も増えている。これまでの職員育成が確実に実を結んでいることの現れである。

また、10月には川崎営業所（R百合ヶ丘）との人事異動、昇格などをスムーズに行うことができた。

3. サービス

(1) 尊厳と信頼と安全・安心なサービス提供

心理的、身体的な拘束を行わないことはもちろんのこと、人権の尊重とプライバシーへの配慮を最も重要な課題として、権利擁護委員会を中心に施設全体で取り組んできた。

「あらゆる場面において敬意を持って対応するーリスペクト・ケア」をスローガンに掲げ、職員への啓発活動を行ってきた。

“第三者委員会”には、引き続き、弁護士の小川佳子氏、社会福祉士の山下康氏、地域代表の山浦照子氏にご協力をいただき、利用者や家族の苦情対応窓口としての機能はもちろんだが、人権の尊重という更に広い視野を持った第三者機関として活動を行った。

(2) 利用者、家族ニーズの把握と対応

2022年度は新型コロナウイルス感染拡大に振り回された一年であった。緊急事態宣言の発出により、ご家族等の面会を制限せざるを得ない状況があったがご利用者の様子や施設の現状についての情報を得たいとのニーズは非常に高いものと想像され、それらのニーズに応えるため、オンライン・窓越し・換気及び距離等の環境を整えての対面面会の実施等の取り組みを行い、ニーズに応じていった。

毎月発行する「常盤台便り」には、施設における“コロナ対策についての情報”“コロナ渦においても工夫をしながらのイベント等の開催”等の情報の共有に努めた。

ご利用者・ご家族の個別的なニーズについては、利用契約時における各種アセスメントを行い個別的なケアプランに反映させるよう努めた。

また、施設サービスや運営・管理などに関するニーズについては、「利用者懇談会」の開催や苦情委員会による取り組みとして行った意見箱のネーミングを「お願いメッセージ」へ変更し、各ユニットや一・五番街へ設置したことにより、個別的で生活に密着したニーズを把握することができた。寄せられたニーズに関しては、個人へのフィードバックに加え、ご利用者、ご家族にも公開し、取り組み状況の開示を行った。

(3) 地域、社会のニーズの把握と対応

新型コロナウイルスの感染拡大は地域との連携、交流も大きな影響を受けた。このような状況の中で、自治会役員の方や地域住民などから、介護相談や施設利用等についての相談が寄せられることが多く、状況によっては緊急に対応しなければならぬケースもあり、柔軟性をもって援助するなど、地域のニーズに応えた対応を実践してきた。

(4) 地域との連携

2022年4月より開店した“喫茶ネオマルシェ”は企画・運営等、全てを常盤台北部自治会橋本会長を筆頭とする役員の方々のボランティアで実施されている。週3回 月・水・金 13:00～16:00開店、多くのご利用者が来店され、手作りのケーキやお茶を楽しみ、和やかで穏やかな時間が流れている光景はご家族、来訪者、そして職員にも感動を与えてくださっている。

(5) 重度化への対応

医療依存度の高い利用者の受け入れという社会的ニーズが増える中、医療処置を継続的に必要とする利用者を、年間を通して施設定員の20%以上受け入れを行った。 (P24～医療処置・内容と人数参照)

重度化への対応と介護職員のキャリアアップ及びキャリア形成を目的に、喀痰吸引等第2号研修の受講を進め、介護職員による特定行為(胃ろう又は腸ろうによる経管栄養及び喀痰吸引)資格を取得した職員は延べ42名となっている。重度化対応とは、看護と介護が連携した高度な介護サービスに対応することであり、年間を通して対応できたことは、当施設の介護力の向上に繋がったと考えている。

(6) 介護サービスの質の向上と標準化

新しい職員の入職やちょっとした気の緩みなどのリスクは潜在していることから、委員会活動による定期チェックや、研修、統括施設長によるスーパービジョンを実施した。中核を担う職員の気付きを促す機会は、これからも持ち続けていく必要があると考えている。

(7) 記録のICT化に伴う業務の効率化と見直しについて

今年度より、記録のICT化に伴い、ケアパレットを使用しての記録が開始となった。導入直後は慣れない職員が多くいたが、研修を行いながら現在では少しずつ使いこなせる様なり、記録業務の効率化が図れるようになった。その反面、不十分な内容の記録や、業務の標準化が出来ていないという課題が見つかった。今後は、この課題をクリアして行く為の業務の見直しを行って行きたい

(8) 感染症対策

(P21～医療処置・内容と人数参照)

感染症・食中毒予防対策委員会を中心として、年間を通して「罹らない、持ち

込まない、拡げない」を合言葉に、研修も含め標準予防策に基づいて予防に力をいれてきた結果、2018年度よりノロウイルス、インフルエンザの罹患率は0名が続いている。

2020年1月より「新型コロナウイルス」が発生し、流行が拡大するに伴い、正しい知識と最新の情報を得るために研修を行い、ご家族や業者などの立ち入り制限や職員の健康管理等、チーム一丸となり感染症予防対策の徹底をはかった。コロナワクチン接種も横浜市の指示に従い、ご利用者、職員ともに5回目まで実施している。

今年度流行した変異株（オミクロン株）の感染力の強さ・速さにより、施設内でも7月、9月、11月とコロナ陽性になったご利用者がいたが、連携病院である東山田ヒルズクリニック、湘南泉病院、常盤台病院の協力のもと、抗原検査やPCR検査、発症したご利用者への内服薬を処方など迅速な対応ができたことで、蔓延を防ぎ、ご利用者も重症化することなく、早期の段階で収束することができた。

4. 人材の育成－研修報告

2022年度中途入職及び新規採用職員を主に現任職員も併せて、車椅子操作、排泄介助、入浴介助、食事介助など、介護の基本的な考え方と技術の振り返りと習得のための研修を実施した。研修後、新規採用職員には配属されたフロアのチューターにより、介護現場で3ヶ月のOJTを行った。

職員個々のスキルに合わせた教育としては、研修委員会が中心となり、スキルアップ研修として介護分野、医療分野に分けた研修を実施した。

また、感染症対策や褥瘡予防といった介護福祉施設の運営基準に則った研修も定期的に開催した。

資格取得のバックアップ研修についても、前年度に引き続き実施し、介護福祉士受験対策講座を約6か月間に亘って計画的に行った。

外国籍の職員が日本語能力にハンデがあるため、介護福祉士受験に合格しない事例や、介護技術の習得にも影響がみられた事から、2022年度も専任の講師を求め日本語教室を開催している。

また今年度は、食事・入浴・車いす操作などの基本的な介護についての研修を、介護職員をはじめ、業務拡大を希望したケアエイドにむけて実施した。

意欲的に自己研鑽に励んで欲しいとの考えの下、研修参加者には参加ポイントを発行し、年間取得ポイントの多い職員5名を表彰、副賞を贈呈した。

< 2022年度 研修開催状況 >

日時	テーマ	講師	参加	時間(分)
----	-----	----	----	-------

			人数	
5月11日	日本語講座	佐藤 祥子先生	9	90
5月23日	日本語講座	佐藤 祥子先生	13	90
6月16日	日本語講座	佐藤 祥子先生	6	90
6月28日	日本語講座	佐藤 祥子先生	8	90
7月6日	日本語講座	佐藤 祥子先生	9	90
8月23日	日本語講座	佐藤 祥子先生	11	90
9月5日	日本語講座	佐藤 祥子先生	9	90
9月20日	日本語講座	佐藤 祥子先生	8	90
10月6日	日本語講座	佐藤 祥子先生	11	90
10月17日	日本語講座	佐藤 祥子先生	9	90
12月1日	日本語講座	佐藤 祥子先生	8	90
12月13日	日本語講座	佐藤 祥子先生	7	90
1月10日	日本語講座	佐藤 祥子先生	6	90
1月26日	日本語講座	佐藤 祥子先生	5	90
2月15日	日本語講座	佐藤 祥子先生	5	90
2月27日	日本語講座	佐藤 祥子先生	5	90
小計	参加人数 129人		時間	1440分
8月16日	スキルアップ研修	高橋好美 施設長	9	120
9月27日	スキルアップ研修	高橋好美 施設長	10	120
10月18日	スキルアップ研修	高橋好美 施設長	10	120
11月22日	スキルアップ研修	高橋好美 施設長	13	90
12月14日	スキルアップ研修	高橋好美 施設長	10	120
1月12日	スキルアップ研修	高橋好美 施設長	10	120
1月18日	スキルアップ研修	高橋好美 施設長	11	120
小計	参加人数 73人		時間	810分
4月5日	権利擁護研修	高橋好美 施設長	29	120
4月13日	しわ上映会	なし	16	90
4月15日	しわ上映会	なし	9	90
4月17日	しわ上映会	なし	10	90
4月27日	しわ上映会	なし	6	90
5月30日	しわ上映会	なし	4	90
6月13日	感染症食中毒予防研修	社会福祉法人育明会 高橋幸雄法人顧問	50	90
6月21日	感染症食中毒予防研修	社会福祉法人育明会 高橋幸雄法人顧問	33	90

4月20日	ケアパレット操作説明会	高橋哲洋 支援サービス課長	19	90
5月17日	ケアパレット操作説明会	高橋哲洋 支援サービス課長	3	120
5月20日	ケアパレット操作説明会	高橋哲洋 支援サービス課長	3	150
5月25日	ケアパレット操作説明会	高橋哲洋 支援サービス課長	23	120
5月27日	ケアパレット操作説明会	高橋哲洋 支援サービス課長	9	120
5月30日	ケアパレット操作説明会	高橋哲洋 支援サービス課長	9	120
6月7日	ほのぼの帳票説明会	ND ソフト 後藤様 高橋哲洋 支援サービス課長	16	120
6月27日	ケアパレット研修	高橋哲洋 支援サービス課長	20	405
6月28日	ケアパレット操作説明会	高橋哲洋 支援サービス課長	7	120
6月29日	ケアパレット操作説明会	高橋哲洋 支援サービス課長	7	120
7月18日	かながわ大会視聴会	高橋哲洋 支援サービス課長	11	60
8月4日	社会保障について	第一生命 丸山様	10	60
8月10日	身体拘束廃止研修	高橋好美 施設長	19	90
9月28日	廃用症候群を知ろう	高橋好美 施設長	16	95
10月3日	廃用症候群を知ろう	高橋好美 施設長	29	90
10月7日	排泄を知ろう～排泄とは何？～	高橋好美 施設長	20	90
10月17日	排泄を知ろう～排泄とは何？～	高橋好美 施設長	21	90
11月24日	SGK×事故防止合同研修	高橋好美 施設長	23	120
11月25日	事故防止研修 ～危険予知トレーニング～	高橋好美 施設長	25	105
11月26日	教えて、リーダー研修	高橋哲洋 支援サービス課長 廣瀬和展 介護サービス課長 古屋倫子 介護サービス主任 鈴木秀和 介護サービス主任 由井崇之 介護サービス主任 石間雄人 介護サービス主任	18	120
11月29日	湘南泉病院 摂食嚥下チームの取り組みについて	湘南泉病院 初谷先生 言語聴覚士	24	90
12月9日	感染症食中毒予防対策研修 季節感染症と吐物処理方法	社会福祉法人育明会 高橋幸雄法人顧問	27	90
12月13日	感染症食中毒予防対策研修 季節感染症と吐物処理方法	社会福祉法人育明会 高橋幸雄法人顧問		90
1月30日	平成若者仕事図上映会	なし	11	30
1月31日	平成若者仕事図鑑上映会	なし	8	30
2月15日	摂食嚥下障害と誤嚥性肺炎の対策	保土ヶ谷ヒルズ歯科 林先生 横浜市民病院看護課長 猪崎先	26	90

		生		
--	--	---	--	--

《研修総合計 参加人数延べ 763 人 総時間 5825 分》

＜2022年度 外部研修参加状況＞

研修名	参加者
介護職員ファーストステップ研修	1名
痰吸引、経管栄養研修	2名
介護職員実務者研修	6名

＜2022年度 研修ポイントゲッター＞

順位	氏名	ポイント
1位	チャム	38
2位	薄倉由美子	37
3位	佐野ロセール	33
4位	菅井保久	32
5位	フェン	31

5. 職員配置と勤務体制

(1) 職員配置

2023年3月31日現在

職種	常勤	非常勤
管理者	1名	
相談員	2名	
介護支援専門員	2名	
看護師	8名	2名
機能訓練指導員	2名	
管理栄養士/栄養士	1名/1名	
厨房職員	7名	6名
介護職員	64名	52名
事務職員	2名	3名
その他		5名
嘱託職員（医師等）		3名
	計	161名

(2) 勤務体制

勤務形態	勤務時間	職種
早番A	7:00～16:00	介護職員
〃 B	7:30～16:30	
日勤	8:45～17:45	介護職員、看護職員、 介護支援専門員、 相談員、栄養士、事務職員
遅番	11:00～20:00	介護職員、看護職員
夜勤	17:00～10:00	介護職員
宿直	18:00～8:30	宿直員
調理	6:00～21:00	調理職員（当該時間でシフト）

6. リスクマネジメント

介護事故、苦情をはじめとする運営上のリスクに対し、組織的に対応できる体制の構築と、組織力の強化に努めてきた。特に介護事故に関しては、“起こしてはならない介助中の事故”と題しての事例検討研修にて危険予知トレーニングを繰り返し行い、リスクを回避（リスクヘッジ）することに努めた。

(1) 苦情対応

- ・施設長を解決責任者とする苦情受付窓口、協議・検討・対応の周知徹底と、早期回答に努める苦情対応委員会、弁護士・社会福祉士・地域住民で構成す

る第三者委員会を開催し情報の共有を図った。

- ・“お願いメッセージ” や職員に直接寄せられた苦情に対し、苦情対応委員会で協議・検討・早期回答に努めた。
- ・利用者懇談会で最も多くの意見を寄せられる“食事”に関する“食事連絡シート”を継続し、当施設の管理栄養士及び委託調理会社の現場責任者から回答を得るようにした。個別にフィードバックできることは速やかに対応した。

(P66～苦情対応委員会活動報告参照)

<ご意見箱の投書内容と対応>

	申立人	内容	対応
4月	利用者 (お願いメッセージより)	太鼓のイベントをやりたい。	月に2回民謡クラブ開催をしており、そこで太鼓を叩く事が出来るので、参加をして頂く事ができる・・・と答えた。
1月	利用者 (お願いメッセージより)	浴室の石鹸置きの水はけが悪く、石鹸がふやけてしまうので違うものを検討してほしい。	新しい物に交換をする事を約した。その後、入浴ケア検討委員会でどのような物にするか検討し交換していく事としている。
3月	利用者 (お願いメッセージより)	食事が美味しくないなので、美味しい物を食べたい	ご本人にお好きの物や召し上がりたい物を伺い、行食やビストロマルシェ等で提供させて頂く様にお答えしている。

(2) 保土ヶ谷区介護相談員

月に1回の頻度で保土ヶ谷区介護相談員2名を27年10月からお迎えしており、利用者の話を聞いて下さる一つのサービスとして定着してきていたが、新型コロナウイルス発生に伴い訪問が中止となっている。

(3) ヒヤリハット報告書・事故報告書

- ・それぞれの報告書を速やかに回覧、各部所に配布し全ての職員へ周知し、情報の共有を図った。また実際の事故事例を基に研修を行い職員への啓蒙に努

めた。

- ・事故発生防止委員会にて、ヒヤリハット・事故それぞれの発生件数を上期と下期に分けて集計し、要介護度や日常生活自立度とのクロス集計により分析を行った。分析から得た結果を元に仮説を立て、検証をするなど、報告を活かした事故防止に努めた。

(P64～事故発生防止委員会活動報告参照)

(4) 危機管理特別委員会 (開催無し)

7. 事務管理体制

- (1) 施設設備等の管理については維持管理を専門業者に委託し、定期的な点検を実施し、異常個所が見られた際には速やかな対処に努めた。以降も、新棟を含めた建物・設備等における破損や不具合を早期発見し、維持に努めたい。
- (2) 予算の執行状況については下半期に補正予算を組み直し、適切な予算と執行に努めた。

(別添決算報告参照)

8. 諸規定の遵守及び検討

過年度同様、介護保険関係法令を遵守した運営を行った。また、慶弔休暇、有給等の休暇制度について、いずれも諸規定を遵守し適切な処理を行った。

9. 物品の管理

事務用、事業用の消耗品の在庫管理については、管理担当者を置き、定期的なコストの見直しを行うとともに無駄のない管理に努めた。また、未だ流行中の新型コロナウイルス対策として横浜市より定期的に不足物品をいただくことができた。全国的な不足の中でも、コストを見ながらさまざまなルートを活用して確保に努めた。

10. 預り金等の適正な保管・管理

預り金管理規定に基づいた保管と管理を行い、定期的に代理人に出納状況を報告した。また、銀行と施設間における管理規定を設け、入居者の預り金の管理

を厳正に行った。

1 1. 防災対策及び施設の保全対策

(1) 防災訓練

非常災害対策委員会を定期的に開催し、防災に関わる総合的な検討を行った。委員会主催の夜間想定避難訓練、日中想定避難訓練他を定期的に実施し、職員の啓発に努めた。また、保土ヶ谷区主催のオンラインによるインターネットによる被害状況等の報告訓練にも参加した。

(P68～非常災害対策委員会活動報告参照)

(2) 防災研修

避難訓練については、日中又は夜間に火災が発生したことを想定した訓練を行っている。家具転倒防止や減災など地震対策については充実させるまでには至らなかった。また、複合火災受信機を始めとした防災機器の取り扱いについても研修を行っていききたい。

(3) 備蓄品の整備

施設の備蓄として入居者定員及び職員分の災害用食品を3日分用意している。また、横浜市より、特別避難場所用の備蓄物資の補助を受けており、災害時における避難者の受入先としての備えとしている。

中央ケアステーションに備えるライトや誘導灯のほか、各ユニットに備える避難用の災害物資、防災袋等、委員会にて継続して検討を行い、充実を図っていく。

(4) 防災の日の取組み

3月11日を「絆の日」、9月1日を「防災の日」と定め、職員の防災意識を高めると同時に賞味期限切れ在庫を防ぐための取組みとして、利用者の昼食を非常災害食メニューとし、希望する職員には有料で提供。味、量ともに好評であった。

1 2. 委員会活動報告

サービス分野別の委員会活動は、施設長をはじめとする管理監督職がそれぞれ

の委員会のスーパーバイザーを務め、各委員会が担当する検討事項について、早期の解決、改善ができるよう、積極的に活動してきた。

(P41～各委員会からの活動報告参照)

1 3. 援助サービス各論

(1) 介護サービス課

◎なじみの関係に配慮した介護職員ユニット固定配置

- ・ユニットケアの前提である利用者と職員の“なじみの関係”構築のために、介護職員を各ユニット固定配置とした。
- ・固定配置の弊害ともいえる、配属ユニット以外の利用者の状態把握については、計画的にユニット相互で応援体制を組むなど柔軟に対応し、課題の解消に努めた。

◎医療的ケアと重度化対応について

- ・胃瘻、喀痰吸引、在宅酸素、インスリン、バルンカテーテル留置など、医療的ケアについては看護職員との連携と情報共有を図りながら、介護することができた。
- ・看取り介護についても、看護職員との連携と情報共有を図りながら、対応することができた。
- ・褥瘡予防については、褥瘡対策委員会主導によるブレードンスケールを使用したスクリーニングと、褥瘡予防（治療）計画書に基づく対応を行った。また、入浴後、排泄介助後のスキンケアにも取り組んだ。

◎個別ケアの実践と個別介護計画書の作成

- ・ケース担当介護職員による個別介護計画書の作成を進め、主任がスーパーバイザーとして関わりながら立案することができた。立案に関わることで、個別介護計画の内容により意識を向けるようになり、個別ケアの実践につながってきている。今後も研修会を定期的で開催しながら、職員個々のスキルアップを図り、如いてはご利用者個々の QOL 向上に直結する個別介護計画書の作成に努めていきたい。

◎業務日誌や看護介護記録等の記録について

- ・看護介護記録などの経過記録については、“記録の意味”を理解した記入ができるようになってきている。再アセスメントやモニタリングの情報

となる内容の記入など、個別援助計画立案に役立てられる記録にしていきたい。

◎委員会活動について

- ・全介護職員が、いずれかの委員会の構成メンバーとなり、課題解決に向けたアプローチを展開してきた。一つ一つの課題解決のための取り組みの成果が見えたり、具現化できたことは、ケアの質を高めることに繋がっている。また、いいね！いいね！大会での活動報告を通し、所属する委員会だけではなく、それぞれの委員会活動に関心が向くようになり、協力、協働の意識が高くなってきていることも成果と考えている。

◎介護スキルの向上と介護事故防止について

- ・委員会主催のスキルアップ研修や外部研修に加え、移動、食事、排泄、入浴といったパート毎の施設内研修を多く開催し参加する事で、職員個々の介護スキルは着実に向上している。
また、ヒヤリハットや、介護中の事故については、事故発生防止委員会を中心にそれらの要因分析を行うと共に、事例検討会を行い、職員一人一人が事故に対する意識を高め、介護中の事故の予防に努める事が出来た。

◎感染症予防について

- ・感染症食中毒予防対策委員会を中心に感染症予防に取り組み、“罹らない・持ち込まない・拡げない”を合言葉に、手洗いと嗽の励行、換気の徹底、環境の整備を図ったが、今年度、職員、ご利用者の中で新型コロナウイルスの罹患者が出てしまった。しかし、職員全員が協力し、しっかりと標準予防策を講じそれ以上の感染拡大を防ぐ事が出来た。今後も標準予防対策を基本とした各種感染症予防策を年間通して徹底していく。

◎褥瘡や拘縮予防について

- ・研修会を通し、ベッドでのポジショニングや車椅子のシーティングについての重要性を再確認し、褥瘡予防、関節拘縮予防に努めた。姿勢が良くなり、筋緊張が解れて関節の可動域が広がる利用者を目の当たりにし、更に意識を高めることに繋がった。
- ・今年度途中より機能訓練指導員が配属になり、ベッド上でのポジショニングの評価とマッサージを開始し、褥瘡予防と関節の拘縮予防に努めた。今後も、機能訓練指導員と協力しながら更なる褥瘡予防、関節の拘縮予防に努めていきたい。

◎チューター制による新入職員の指導について

- ・各番街に配属された新入職員について、先輩職員がチューター役として、

仕事上の指導や教育はもちろん、職場での不安や悩みを聞きながら新入職員の指導を行った。又、“成長の記録”を記入してもらい、それを各部署の職員が回覧し新入職員の習得度合いや指導方法の確認を行う事ができた。

◎外国籍職員への指導について

- ・各番街に外国籍職員が多くなり、指導については、職員一人一人がその国の文化や習慣等を理解し受け入れながら指導を行うと共に、職員一人一人が積極的に笑顔で挨拶を行う事で、言葉の壁を取り除く事が出来た。今年度より、先輩外国籍職員の講師による「文化交流会」を開催し、文化の違いや悩みを共有する事が出来、外国籍職員の方の指導に活かすことが出来た。又、今年度も外部講師による「介護現場で役立つ日本語講座」を開催し、外国籍職員、新入職員が参加、仕事で使える日本語を学んでいる。

◎留学生・技能実習生の受け入れ

- ・実際に OJT に入る前に、介護の基礎とレジデンシャル百合ヶ丘と合同で技術の研修を行い、法人全体として留学生やインターン生、特定技能実習生の受け入れ体制を整える事が出来た。又、現場での指導や教育では、外国籍の職員の言葉や文化、習慣の違いなどの協力を得ることができ、チームとして指導、教育を効果的に行う事が出来た。

◎申し送りについて

業務の引き継ぎの際の申し送りについては、これまで申し送り時間が長くその後の業務に影響が出てしまう事があり、今後は、要点を絞り短時間で適切な申し送りが行える様引き続き行って行きたい。

◎緊急ショートステイの対応について

コロナ関連の緊急ショートステイ受け入れに伴う人員の配置については、各番街から応援体制を組みながら滞りなく対応を行う事が出来た。今後も、引き続き各番街での協力体制を組みながら対応をして行く。

(2) 看護サービス課

◎医療的ケアと対応

- ・ご利用者の重度化、高齢化に伴い、医療的ケアを必要とするご利用者が年々増えてきており、急変のリスクも高くなってきている。(P25～医療処置内容と人数参照) そのため、介護職員への医療的知識・技術の習得へのサポート、情報の共有と緊密な連携を図りながら、異常の早期発見、早期対応に努めた。
- ・今年度の入院延べ人数は 69 人で、平均入院日数は 30.5 日、平均入院日数は、32.2 日から 30.5 日と若干の減少がみられた。
増床に伴う入居者人数の増加や重度の方も受け入れていることや年数とともに既存のご利用者の高齢化とともに心身共に重度となりより一層予防的な視点でのケアとキメ細かな観察、早期の段階での対応が必要となつてきている。

(P24～入院日数と主な入院理由参照)

- ・脱水・尿路感染症予防として、引き続き水分補給の強化を図るため、各番街にウォータージャグを設置。また、嚥下状態に合わせて、水分補給用のゼリー（お茶・イオンゼリー）を常備し、水分を摂取しやすい環境を整えた。またメニューや味が豊富な市販の水分ゼリーや高カロリーのゼリーなども取り入れる等ご利用者の水分補給に対して介護職員、ご家族と連携して取り組んでいる。
- ・ご利用者の状態に変化があった時は、速やかにご家族へ連絡すると同時に、施設長へ報告して指示を仰ぎ、他職種と情報を共有連携して対応した。

◎医師や医療機関との連携

- ・配置医は昨年度より引き続き湘南泉病院から初谷医師（内科）月 4 回。都筑シニアセンター内東山田ヒルズクリニックから曾田医師（内科）が月 2 回診察常盤台病院より月 2 回岩崎医師（精神科）、という診療体制をとり、ご利用者の健康管理の充実を図ることができた。
- ・ご利用者の状況をみながら、適宜、ご家族と主治医との面談の場を設け、ご家族の意向の確認に努めた。主治医と直接相談することで、入院検査・治療の方向付けと対応もスムーズに行うことができた。
特に、湘南泉病院へ通院・入院の受け入れ態勢が、初谷医師や病院との連携により、困難事例も含め、スムーズに対応することができた。
- ・精神科医師の配置により、認知症をはじめとする精神症状が悪化した場合の相談や入院の対応もスムーズに行えた。
- ・緊急時に受診先（受け入れ可能な病院）を探すのが年々困難となっている状況にあり、特にコロナ禍においては医療機関とのさらなる連携が必要と感じている。

◎口腔機能の維持向上

- ・東山田ヒルズクリニックより歯科医師、歯科衛生士による治療と口腔ケアを実施、特に口腔ケアに関しては歯科衛生士が定期的実施することで、より充実したものとなった。口腔機能の維持は全身状態を左右する重要な要素であるため、施設チームデンタルとしてご利用者の口腔衛生及び口腔機能の維持向上に努めた。
- ・口腔体操が毎食前に行うことが定着した。

◎看取り対応

(P25～医療処置内容と人数参照)

- ・今年度は、26名の方の“看取り”を行った。特にコロナ禍では入院中の面会はできないため、ご家族は施設に戻ってきたいというご希望が多く聞かれた。施設ではお看取りのご利用者は、ご家族に体調確認していただき、1回30分、2人までという制限はあるが、居室での面会を可能とし、最後の時は時間の制限なく面会を可能とした。そのため、面会できない病院ではなく、会える施設で最期を迎えたいという希望のご家族が多くいらっしゃり、結果的にお看取りの人数が増加した。施設で最期を過ごされた皆様は、どなたも穏やかな表情をされ、その人らしい最期の時を迎えられたのではないかと考えている。後日、ご家族から手紙を頂戴することも多く、最期の時間を一緒に過ごすことができた充足感の言葉とともに、職員への労いや感謝の言葉が綴られていた。このような経験が“看取り”に携わった職員の達成感や充実感にも繋がっている。
- ・看取り介護に際しては、状況に応じて、医師や施設長によるご家族との面談の場を設け、ご家族の意向を伺いながら、精神・心理的サポートを行っている。年々施設での看取りを希望されるご家族が増えてきている。施設としては、今後もご家族のニーズに応じていきたいと考えている。また看取りの時に対応していただく曾田先生のご協力なくしては、できないことでもあり、今後も連携をはかりながら行っていきたい。
- ・ご利用者の最期を看取することは、“お1人の人として生き方、人生を支えきること”と向き合うという私達にとっても意味があるものであり、その度に、様々なことを学ばせていただいている。今後も各部署、医師と連携を図りながら継続して取り組みたい。
- ・看取り介護についての施設内研修は、定期的実施している。看取りのニーズの高さとそれにこたえるべく職員の意識も継続していくことが、課題となっている。

◎褥瘡対策について

- ・褥瘡対策委員会と連携し、多職種協働で褥瘡予防対策に努めた。
しかしながら、重度化することはないが軽・中度の皮膚トラブルの発生が

みられており、予防対策の徹底を図る必要がある。

(P58～褥瘡予防対策委員会活動報告参照)

◎新型コロナウイルス対策及び感染症・食中毒対策について

- ・新型コロナウイルスが猛威を振るう中、正しい知識で正しく恐れるために研修（感染症予防対策委員会と連携し）を引き続き実施し、予防対策の徹底をはかった。

出勤時・退勤時の検温、出勤時のマスクの交換、靴裏の消毒など、職員一人一人の健康管理に加え、取り巻く周囲の方々の動向にも注意を払い“持ち込まない”ように徹底した。

しかしながら2022年7月職員3名、ご利用者3名、9月～10月職員4名、ご利用者3名、11月職員10名、ご利用者5名の新型コロナウイルス発症が認められた。協力医療機関や主治医の協力のもと、入院治療やラゲブリオの内服等、施設長指示のもと職員が一体となって蔓延を防ぐ対応を直ちに実施したことで、いずれも同じ番街のみで他の番街に広がることなく収束できた。“オミクロン株”は無症状でも発症していたり感染力が強く侮れないウイルスであることを改めて実感した。

その後も新型コロナウイルス陽性となった職員やPCR一斉検査で無症状ながら陽性反応がでた職員も数人いた。本人はもとより家族から陽性者が出た場合、速やかに業務停止体制をとった。

また濃厚接触者で経過観察期間終了時や体調不良時は出勤前に抗原検査を実施し、水際対策の徹底をはかった。

- ・PCR検査が世間では難しい時に、東山田ヒルズクリニック、湘南泉病院、常盤台病院の協力のもと、速やかに対応できたことは、初期の段階で対策ができ、施設、職員の安心感にもつながり、このような連携体制が整えられていることに感謝している。また東山田クリニックよりIDナウの器械をお借りしPCR検査もできるようになった。さらには横浜市より抗原キットの提供があり、症状がある職員や利用者、ショートステイ利用前、長期休暇後等いろいろな場面で検査を行うことができ、早期の発見・対応につなげることができた。

- ・コロナワクチン接種

4回目を2022年7月～8月、5回目を2022年12月～1月にかけて東山田ヒルズクリニック、湘南泉病院のご協力のもといち早く接種することができた。また職員の家族や地域の方々も併せて接種することができた。

- ・通院後の車いすの消毒や通院・退院後の居室対応なども引き続き実施した。
- ・今までも通年を通して感染症予防として手洗いの励行、体調管理を行ってきたが、より徹底したことで、インフルエンザ・ノロウイルスの発生はな

かった。手洗いの徹底・マスクの着用（標準予防策の徹底）をすることが、
“最大の感染症の予防策”であるということを再認識することができた。
(P52～感染症食中毒予防対策委員会活動報告参照)

◎緊急ショート事業

- ・横浜市高齢者緊急ショートステイ事業（新型コロナウイルス対応型）及び横浜市高齢者退院支援緊急ショートステイ事業を受託したことに伴い、基本的な感染症対策（ガウンテクニックや手洗い、消毒など）をについてCWへの指導を徹底した。

またご利用者の健康観察に努め異常の早期発見対応に努めた。

何れのケースも重症化することなく、ご自宅や利用前の施設に戻られたが、1例のみ利用後10日を過ぎてコロナ発症し、その時に痰吸引が必要となった。その際担当した職員3人がコロナ発症した。日数が経過していても発症のリスクがあるということを再認識した例であった。今後も各部署と協力しながら安全・安心にご利用できる体制を構築していきたい。

◎爪ケア

今年度も引き続き外部の専門家に爪ケアに月2回程度入ってもらっている。高齢者は爪が肥厚したり巻き爪になったり爪切りが難しいご利用者もいるため、専門家が爪切りをしてくれることはご利用者の清潔の保持、安心感にもつながるとともに、看護師の業務の軽減にもつながっている。尚料金が発生するため、ご家族の同意が得られた方のみ実施している。

◎機能訓練について

- ・ご利用者及びご家族の意向を踏まえた「個別機能訓練計画書」を作成し、説明・同意・交付を行った。合わせて、同報告書も交付した。
- ・昨年度はレクリエーションリハビリが実施できなかったが、今年度はほぼ毎月1回実施することができた。
ご利用者のご希望も多く、今後も機能の維持・向上のためにも実施していく必要がある。

(P78～レクリエーションリハビリ活動報告参照)

◎ケアプラン会議への参加

- ・個別看護計画の更新・作成を定期的実施していく必要がある。

◎研修の実施

- ・新人研修、経管栄養、喀痰吸引、感染症対策、褥瘡予防、看取り対応、嚥下機能などの研修を各委員会と協力・協働して行った。

- ・講師資格をもつ3名の講師が外部の喀痰吸引等研修の講師として参加、実地研修受入施設として実技研修を行った。次年度以降も可能な限り協力していきたい。

◎利用者の健康診断

- ・今年度は1月17日（火）に125名実施。結果をもとに、配置医の初谷医師、曾田医師、岩崎医師の指示を受け対応した。

◎インフルエンザワクチン予防接種

- ・職員予防接種 118名 ご利用者133名接種（ショートステイ含む）
（P68～労働安全衛生委員会活動報告書参照）

◎肺炎球菌ワクチンの接種

- ・該当し希望のあった9名に接種

◎記録の ICT 化

- ・今年度より記録の ICT 化に伴いケアパレットを使用しての記録となった。最初は不慣れのため抵抗があった職員も、現在では使えるようになってはいるが、細かいところでの統一が図れていなかったり、記録忘れがあったりしているため、引き続き各自確認しながら行っていく必要がある。
- ・処方箋の内容を定時処方が出た時点で、更新しているが、日々の内服変更や臨時薬の内服などリアルタイムに入力するのは難しい現状がある。
- ・ICT 化になっての利点は、褥瘡や創部などをケアパレットで写真を撮ることができるため、情報の共有ができるようになった。また、バイタルサインや排泄などを一覧表で確認できる。パソコンで、全利用者の情報を得ることができるなどがあった。欠点として感じたのは記録用紙として残っていないため、通院時に以前の経過を確認するのに困ったりした。
- ・来年度は褥瘡の記録や看取りの記録などさらなる活用が要求されると思われるため、指導を受けながら実施していきたい。

<入院状況> (件)

	男性	女性	計		男性	女性	計
2022年4月	1	4	5	2022年10月	5	3	8
2022年5月	1	4	5	2022年11月	0	3	3
2022年6月	2	6	8	2022年12月	0	4	4
2022年7月	3	1	4	2023年1月	0	5	5
2022年8月	1	3	4	2023年2月	3	3	6

2022年9月	6	6	12	2023年3月	0	5	5
				2022年度合計	22	47	69
				(2021年度合計)	14	41	55

<入院日数> 2021年度と2022年度の比較

	2021年度	2022年度	日数差
最長入院日数	86日間	84日間	2日間
最短入院日数	2日間	2日間	0日
延べ入院日数	1773日	2110日	337日↑
平均入院日数	32.2日	30.5日	1.7日↓

<入院先の医療機関>

湘南泉病院（協力医療機関）	43	保土ヶ谷中央病院（協力医療機関）	11
横浜市民病院	3	その他	12
合計			69

<主な入院理由>

① 肺炎	11 (15.9%)	⑦ 骨折	6 (8.6%)
② 尿路感染症	7 (10%)	⑧ 消化器疾患	9 (13%)
③ 食欲低下	1 (1.4%)	⑨ 心不全・腎不全	0
④ 脳血管障害	3 (4.3%)	⑩ 膀胱・尿管結石	2 (3%)
⑤ 心疾患	2 (3%)	⑪ 癌	7 (10%)
⑥ 胃ろう交換・造設	0	⑫ その他	21 (12%)
合計			69

<退所者数>

年間退所者数	44名	内 訳	
		施設での看取り	26名
		医療機関での死亡	8名
		療養型などへ転院	8名
		特養施設へ転居	0名

自宅などへ転居	2名
---------	----

<医療処置・内容と人数> 2023年3月31日現在

医療処置者

グレード1	49名	褥瘡 バイタル測定(2検) 浣腸・摘便	2名 10名 37名
グレード2	36名	膀胱留置カテーテル バイタル測定(3検以上) 喀痰吸引 インシュリン	10名 11名 10名 5名
グレード3	14名	胃瘻 在宅酸素療法 点滴	12名 3名 0名
グレード4	4名	悪性腫瘍	4名
計	延べ103名		

グレードⅡ～Ⅳ 73.5% (2022年66%)

<医療指針におけるグレード>

◆グレード1

- ① 褥瘡処理
 - ② 浣腸、摘便
 - ③ 医師より1日2回のバイタルサインチェック（体温、脈拍、血圧、酸素飽和度）の指示
- ・施設内で日常的に医師の指示により看護師が実施可能な医療行為です。
 - ・利用者が入居時に必要となった場合も、利用の継続が可能です。

◆グレード2

- ① 導尿、膀胱留置カテーテル、腎ろう、膀胱ろう
 - ② 人工肛門（ストーマ）
 - ③ 喀痰吸引
 - ④ インスリン注射（血糖コントロールが良好なもの）
 - ⑤ 経鼻的持続陽圧呼吸法（NCPAP）
 - ⑥ 医師より1日3回のバイタルサインチェック（体温、脈拍、血圧、酸素飽和度）の指示
- ・施設での実施が可能な医療行為です。ただし、無条件ではなく、通常より医療依存度の高いケースでは、グレード3へ移行します。
 - ・入居後に必要となった場合も、病院での処理後に利用の継続が可能です。

◆グレード3

- ① 経管栄養療法（胃ろう）
 - ② 在宅酸素療法
 - ③ 脱水等に対する一時的点滴
 - ④ 利用中の事故による創傷に対する縫合処理（簡単なもの）
 - ⑤ 毎日の血糖測定とスライディング・スケールによるインスリン注射
 - ⑥ 血液透析
 - ⑦ 頻回な喀痰吸引
- ・高度な医療を必要とする為、施設内での実施は、その時点での看護師数や施設内での医療行為の総量等の影響を受ける為、条件付きで可能です。
 - ・利用者がこの医療行為が必要となった場合は、個々のケースで対応します。

◆グレード4

- ① 自己腹膜還流
 - ② 中心静脈栄養
 - ③ 悪性腫瘍患者への科学療法
 - ④ 気管切開
 - ⑤ 結核排菌者への治療
- ・高度な医療行為が必要なため、施設での実施は原則的に不可。
 - ・利用者が入居後、必要となった場合は適切な病院へ転院させ、この医療行為を必要とする限りは施設へ再入居することはできません。

<通院医療機関> (件)

1) 湘南泉病院 (協力医療機関)

① 内科	35
② 外科	28
③ その他 (整・皮・泌尿)	42
合計	105
	前年(100)

2) 保土ヶ谷中央病院 (協力医療機関)

① 内科	26
③ 外科	7
⑤ 整形外科	63
⑥ 皮膚科	29
⑦ 眼科	11
⑧ 耳鼻科	4
⑨ 泌尿器科	2
⑩ 口腔外科	0
⑪ 精神科	0
合計	142

3) 山本記念病院 (協力医療機関)

① 内科	0
③ 整形	0
⑤ 泌尿器科	0
⑦ 皮膚科	34
合計	34

4) 常盤台病院

① 精神科	1
合計	1

5) 横浜市民病院

① 内科	12
② 外科 (乳・脳)	2
② 皮膚科	4
④ その他 (整・泌・婦)	10
合計	24

6) 都筑シニアセンタークリニック

① フットケア	0
② 内科	30
③ 歯科	1
合計	31

7) その他の医療機関

① 内科	31
② 皮膚科	23
② 脳外科	10
④ 婦人科	1
⑥ 整形外科	13
⑥ その他 (耳・歯・外)	66
合計	144

総合計	481
-----	-----

前年度
386

(3) 支援サービス課

施設の総合窓口として、ご利用者やご家族はもちろん、地域、各介護保険事業者、行政等からの問い合わせ等にワンストップで対応することを目的に各相談業務を行っている。これからも施設の顔として前線に立って役割を果たしていく。

◎入退所業務（P29～入所退所状況、利用稼働率参照）

- ・入所、退所状況…年間入所者数25名、年間退所者44名
- ・年間平均入居稼働率79.4%※短期は91.5%
- ・第一月曜日に入退所検討委員会を行い、横浜市が取りまとめている入所待機者名簿に基づいて協議検討を行った。また、状況に応じて委員会を臨時で開催した。
- ・利用稼働率は、上半期は90%以上を維持していたが、下半期には毎月看取り対応または疾患の重症化によって入院、退所するご利用者が増加。ほぼ毎月、新規の入所を行うが退所が上回る状況が続いた。また、ご利用者の体調不良等での入院による空床と、支援サービス課の職務である新規利用者の入所調整に伴う空床が反映される。新型コロナウイルスの流行により在宅への復帰を躊躇するご家族の増加により空所利用を伴う短期利用が増加したことが要因とされる。
- ・また、昨年につき、入院者数の増加、月の入院による空床延べ数が100日を超える月が約70%を超える状況となりリカバリーがスムーズに行えない状況となった。

◎ケアマネジメント業務

- ・新型コロナウイルスの流行に伴いご家族参加の会議は開催出来ず、介護場での状況を踏まえて適宜ケアの変更に努めた。
- ・施設サービス計画書の作成については、年間の更新作業のルーチン化を行い、おおむね更新を行えているが、新規の入居者に対する計画の作成並びに更新が滞っている状況にある。
- ・モニタリングについては、個別介護計画書との定期的な見直しを図ること目標としていたが、個別介護計画の更新が滞っていることから、次年度は効率よくモニタリングが行えるように整備を行っていく。
- ・サービス変更に際してのモニタリング様式を導入し、介護の視点からそのサービスが適正であるかを検討する仕組みを構築した。

◎ご利用者のニーズ把握と情報開示（利用者懇談会の主催）

今年度は日程調整が行えず、開催する事が出来なかった。

◎ ご家族のニーズ把握と情報開示（家族懇談会の主催）

新型コロナウイルスの影響により今年度は開催出来ず。ご面会の制限を実施している事により近況報告のお手紙を作成郵送。また、面会への要望についてはコロナ禍においてもご家族のニーズの把握と情報の提供に努めている。

◎介護保険関係申請代行業務

要介護認定や各種介護保険関係の申請代行、各種手続きの補助を行った。介護保険、医療の各種認定証はそれぞれ更新申請時期が異なるため、有効期限を把握し、必要な手続きが速やかに行われるよう努めた。また新型コロナウイルス流行による経過措置などの制度説明を行う事で保険更新の対応に努めた。

また、今年度は保土ヶ谷区在住のみならず、横浜市内、神奈川県外の利用者は施設ケアマネージャーによる認定調査を実施。32件の認定調査を行った。

◎その他

- ・居室にあるご位牌やお仏壇にお供えする“お仏飯”の提供を行っている。
- ・ビストロマルシェやカフェマルシェ、年間行事に対応した。
- ・入居希望者の見学対応や申し込み後のソーシャルワーク視点での対応を行い、制度の説明や手続きなどの助言などを行う事で、施設への信頼を向上することに努めた。
- ・ご利用者のニーズに応え実施を始めたラジオ体操を継続することにより、参加者の身体機能の維持と、ポイントカードを獲得する意欲の維持に努めることが出来た。

<利用者状況>

(2023年3月31日現在)

① 年齢

平均年齢	88.1	男性	85.5
		女性	88.6
最高年齢	102	男性	99
		女性	102
最低年齢	66	男性	69
		女性	66
平均介護度	4.3 (4.3)	男性	4.3 (4.2)
		女性	4.3 (4.3)

() は2022年3月の数字

< 2022年度 入所・退所状況 >

人数

	入所			退所		
	男性	女性	計	男性	女性	計
4月	2	4	6	1 (1)		1
5月	1	4	5		1 (1)	1
6月				1	5 (5)	6
7月				2 (1)	3	5
8月		2	2			
9月	1	3	4	3	3 (1)	6
10月	3	3	6	3 (3)	4 (4)	7
11月		1	1	2 (1)	4 (2)	6
12月		1	1	1 (1)	2 (1)	3
1月		1	1	1	2 (1)	3
2月	1	5	6	2 (1)	3 (3)	5
3月		1	1		1	1
合計	8	25	33	16 (8)	28 (18)	44 (26)

・ () は死亡退所された人数

・ 当施設での看取り介護を行った人数は26人(昨年度19人)

利用稼働率

(期間 2022年4月1日～2023年3月31日)

	入居150床	ショート10床
4月	95.4%	71.7%
5月	96.1%	71.9%
6月	95.2%	75.3%
7月	92.1%	109.4%
8月	93.4%	123.5%
9月	93.3%	135.8%
10月	93.5%	66.1%
11月	93.5%	73.3%
12月	91.6%	82.6%
1月	90.5%	108.1%
2月	90.1%	86.8%
3月	89.5%	87.7%

	年間平均
入居	79.4%
ショート	91.5%
総合	80.1%

◎面会について

- ・ 2021年2月にネットワーク環境を整え、ご利用者の方にも受け入れし易いウェブ面会の実現するため、諸機材を導入、ツールはZOOM、Google Meetの選択制を継続。
- ・ 看取り対応のご利用者については人数の制限を2名までとし換気をしながら居室での面会を可能とした。
- ・ 2022年5月より新旧のカラオケ機器を利用した窓越し面会を再開。マイクとスピーカーを入れ替えることによって問題なく音声を届けることが可能となった。
- ・ 同年10月からは距離を保ちアクリル板越しではあるが、対面面会を再開する。面会前の消毒やマスクの交換を必須とし、2名までとし、30分の時間を設けた。その後の消毒を事務課の協力の基行って現在に至る。
- ・ 引続き小学校以下のお子様がいる場合は窓越し面会としている。また地方からの親族・関係者の希望時は抗原検査の実施に協力をいただいている。

14. 行事・クラブ活動等実施状況

行事の企画については、季節感を大切にすることはもちろんだが、ひとつひとつにこだわり、ご利用者への想いを込めて企画運営してきたが、2021年度は新型コロナウイルスの感染拡大によりこれまでの様式を変えて行う必要があり、様々な工夫を講じながら企画実施した。

その象徴的な企画は、近隣の公園へ外出する花見である。「日本人が特別な思いを寄せる桜を、満開の時に観ていただきたい。」「来年の桜は観ることができないかもしれない。」そのような思いから、新型コロナウイルスの影響下でも桜を見て頂きたいとの思いから施設内で桜を用意し、お琴の演奏を聴きながらお花見弁当を行事食として楽しんで頂いた。

また、8月に開催した恒例の“サマーフェスタ in Marchè は外部から人を呼び寄せることは感染のリスクがある事から、今年度もご利用者と職員が一緒に楽しむことができる「暑気払い・ビアガーデン」へと変更し、交流を深める機会へと変更した。

9月の敬老祝賀の集いでは、祝膳の他にも職員によるお楽しみの部を設け、今年度は「唄で綴る思い出のひばり」を披露し、楽しんでいただいた。

(1) 行事实施状況

(P42～行事委員会 活動報告参照)

(2) クラブ活動実施状況

クラブ活動については、引き続きボランティアの先生方にご協力をいただき、定期的に楽しみ、生きがい、生活の潤いとなる場を提供できた。

カフェマルシェ、ビストロマルシェも定期的に開催した。カフェマルシェでは、毎月最終開催日に、利用者ご家族でもあるボランティアの方によるお琴の演奏会を行い、大変好評であった。(P72～各クラブ活動報告 参照)

クラブ活動内容	実施回数	延べ参加人数
組紐教室	11回	149名
民謡クラブ	20回	806名
書の会	20回	411名
サロン悠々常盤台教室	6回	66名
レクリハ	12回	258名
カフェマルシェ	32回	951名
ビストロマルシェ	7回	237名

15. 地域連携

(1) 短期入所事業

- (2) 今年度は昨年につき、上半期は新型コロナウイルスの影響に伴い、新規の短期入所利用者が減少する傾向にあったが、下半期より、入所しているご利用者の親族や近所に住まわれている知人。また以前入所していたご利用者の家族より情報を得たという利用を希望する方が増えていった。
- (3) 昨年度同様、ご利用者やそのご家族、担当のケアマネジャーからの当施設利用満足度は高く、そのつながりから新規利用が増えつつある。事業所としてのサービスの質を維持するとともに、今後も稼働率の維持向上に努めより良いサービスが行えるよう、各セクションと連携を強め対応していきたい。
- (4) また、横浜市高齢者緊急ショートステイ事業(新型コロナウイルス対応型)・横浜市高齢者退院支援緊急ショートステイ事業を受諾し、新棟の8番街を事業の受け皿として使用。感染拡大に比例して利用者が増減したが、介護サービス課の協力により、無事に自宅へ戻られる事へとつながった。その後、当

施設のサービスが受け入れられ、リピーターとなり、現在も利用する事につながっている。

◎入退所業務

- ・ 稼働率の向上…年間平均稼働率 91.5% (昨年度78.0%)
(P30～利用稼働率参照)
- ・ 利用稼働率の向上は、今年度も大きなテーマであった。そのため、ご利用者への日常介護サービスの向上はもとより、居宅支援事業所とも良好な関係が築けるよう努めてきた。
- ・ 新型コロナウイルスの流行に伴い、自宅へ戻る事への危惧から短期入所の延長を希望されるご家族の増加が下半期の稼働率向上につながったと思われる。
- ・ 介護度は低いが、在宅での生活継続が困難となった利用者には、入所までのサポートを行う事で、ご家族、利用者への安心感につながる事となった。
- ・ 緊急ショートステイの一部で病院からの退院支援にも柔軟に対応し、その後、在宅への復帰や入所へとつなげるサポートも行った。

新型コロナウイルス対応型緊急 SS		
	実利用者人数 (名)	利用者延日数 (日)
4月	0	0
5月	2	32
6月	1	1
7月	7	23
8月	2	13
9月	1	7
10月	0	0
11月	1	7
12月	5	32
1月	4	36
2月	2	7
3月	0	0
計	25	158

高齢者退院支援ショートステイ		
	実利用者人数（名）	利用者延日数（日）
4月	1	7
5月	0	0
6月	0	0
7月	2	21
8月	3	11
9月	5	47
10月	2	5
11月	1	5
12月	0	0
1月	1	14
2月	1	6
3月	0	0
計	16	116
高齢者退院支援ショートステイ		
	実利用者人数（名）	利用者延日数（日）
1月	3	22
2月	6	57
3月	0	0
計	9	79

◎利用環境の整備

- ・居室内の清掃やリネン類のセットにより清潔感のある居住環境に努めた。

◎バースデイサービス

- ・利用期間中に誕生日を迎えるご利用者には、当施設から誕生日ケーキとメッセージカードをプレゼントしている。1年に1度の自分だけの特別な日を、他のご利用者と共に祝いし、非常に喜ばれている。

◎在宅生活継続へのソーシャルワーク機能

新規利用者には、新型コロナウイルスの影響に伴い施設でご家族よりの聞き取りとサービス担当者会議照会の提出や電話での情報提供を積極的に行った。居宅ケアマネジャーとの連携を図る事はもちろん、他のサービス事業所間との情報共有を行い、ご利用者とそのご家族の潜在的なニーズをくみ取りソーシャルワーク機能も含めて適切なサービスが行える様に対応した。

(2) 実習生受入状況

<実習生受入実績>

実習種別	人数	養成校
介護福祉士 施設実習Ⅱ	3名	湘南医療福祉専門学校

(3) 施設見学受入状況

施設見学等受け入れ（入居希望者除く）		
3月16日	中国 遼寧省	2名

(4) ボランティア受入状況

新型コロナウイルス感染対策として、緊急事態宣言下においては、カフェマルシェやビストロマルシェなど、内部でのみできる活動継続に努めた。また、宣言解除後においては、予防策をとりつつ、常盤台農園での野菜の栽培、規模を縮小しての行事の開催、クラブ活動の再開にあたっては、ボランティアの先生方に協力いただいた。

施設の社会性を高め、施設サービスプラスαの効果をもたらすボランティアの協力は必要不可欠であり、今後も個人、団体、グループ、学校等へ働きかけ、細く長く、継続的に協力を得られるようなコーディネートをしていきたい。

<ボランティアによるイベント等の状況>

7月	3日	七夕茶会	山路宗勝先生
8月	17日	ビアガーデン常盤台 2022	
10月	12日	オータムコンサート	たんぽぽの会・フレッドハーモニーの皆様
12月	6日	イルミネーション点灯式	SOMETHING の皆様
1月	7日	新年祝賀の集い	琴・尺八・民謡
	23日	組初め式	加藤真江先生
3月	5日	桃の節句お茶会	山路宗勝先生
	26日	開設12周年記念感謝の集い	（今年度は中止）

(5) 社会資源としての地域連携

施設も地域の重要な社会資源の一つであり、当施設が持つ設備資源はもちろん、専門職集団としての資源も地域還元していきたいと考え、地域との連携を重視してきた。地域の方々を施設行事や催しへ招くだけでなく、地域の催しへの参加や協力も積極的に行った。

(6) 常盤台農園の営み

ボランティアの協力を得て、専用農園での野菜作りを行った。“旬”で“新鮮”で“安心できる食材”を食卓に届ける取り組みは、これまでの取り組みの成果もあり、ご利用者のご家族、さらには地域の皆様にも浸透してきている。今年度も、ビストロマルシェ、カフェマルシェ、バイキング、元旦祝い膳などのイベントでの食材として収穫した野菜を使用した。

<提供メニューの一例>

<ul style="list-style-type: none">・人参→グラッセ、肉じゃが・里芋→味噌煮 白煮、煮物・菜の花→からし和え、お浸し・キャベツ→お新香、お浸し・きゅうり→浅漬け、きゅうちゃん漬け・大根→沢庵、おでん、煮物、サラダ・じゃがいも→肉じゃが、煮物・小松菜→お浸し	<ul style="list-style-type: none">・トマト→マリネ、シロップ煮・なす→お新香、和え物、揚げ浸し・安納芋→スイートポテト・すいか→フルーツ・さつまいも→菊華しぼり、煮物・白菜→お浸し、お新香、湯豆腐・ホウレンソウ→炒め物、お浸し・かぶ→煮物、お新香
---	---

(7) メディア等への発信

- ・レクリエ (2023.3.4月号 世界文化社 掲載)
- ・神奈川福祉人材センター【福祉のしごとへようこそ】WEB掲載
- ・神奈川テレビ NewsLink 紹介 (2023.1.20 放送回)

Ⅱ. 2022年度活動報告一覧(自2022.4.1～至2021.3.31)

事業月日		内容	分類					備考
			行事等	研修	見学 取材	人事	その他	
月	日							
4	1	年度初め全体朝礼				○	○	
		施設内研修「虎の穴」開始		○				4月かけて実施
	4	施設内研修「記録システム」		○				延べ115名参加 講師:高橋支援サービス課長 以降、ケアパレット使用し複数回開催
	5	お花見弁当	○					昼食時、ご利用者職員提供
		施設内研修「権利擁護」		○				29名参加 講師:高橋施設長
	13	施設内研修「“しわ”上映会」		○				延べ45名参加 同内容で15日、17日、27日 5/26、5/30開催
	21	カフェ“ネオマルシェ”開店	○					以降、毎週月・水・金曜日開店 自治会の方3名ボランティア
		鯉のぼり掲揚	○					
	28	訪問マッサージ再開					○	業者の立入について緩和
5	5	皿鉢料理	○					“端午の節句”昼食時提供
	11	施設内研修「日本語講座」		○				講師:佐藤祥子先生 以降、月2回実施
	12	技能実習生2名来日				○		中国より
	17	消防定期査察					○	
	26	理事会開催					○	
6	1	アイパッドを用いた電子記録システム 運用開始					○	
	8	高齢障害求職者雇用支援機構 訪問調査来所						常勤数が100名を超えた事業者を 定期で訪問
	9	評議員選任・解任委員会					○	
	13	施設内研修「感染症対策」		○				延べ83名参加 講師:高橋幸雄顧問 同内容で21日実施
	21	評議員会開催					○	
	29	常盤大飯店	○					金沢“桃花片、ミシュラン 小川氏来所
7	1	しそジュース作り	○					ご利用者と
	3	七夕茶会	○					山路千勝先生指導
	7	ご利用者コロナワクチン接種					○	接種4回目、次回は8/5、8/8

事業月日		内 容	分類					備 考
			行事等	研修	見学 取材	人事	その他	
月	日							
7	8	不在者投票実施						参議院議員選挙(68名投票)
	12	サマーバーゲンinマルシェ	○					衣類販売
	18	かながわ高齢者福祉研究発表大会 視聴会		○				11名参加 3題発表のうち2題優秀賞
8	3	職員コロナワクチン接種					○	以降数日かけ実施
	4	施設内研修「社会保障セミナー」						10名参加 講師:第一生命丸山氏
	10	施設内研修「身体拘束廃止」		○				19名参加 SGK委員会
	12	盆踊り練習	○					ピアガーデンに向けての練習 8/15、16は自治会の方ご指導来所
	15	定時制高校生向け職業ガイダンス				○		外部にて施設長講師
		施設内特別清掃実施					○	感染症対策として
	16	施設内研修「スキルアップ」		○				9名参加 研修委員会 以降月1~2回開催
	17	ピアガーデン常盤台	○					
	25	実務者研修開始		○				全7回 施設より6名受講
	26	喀痰吸引研修開始		○				全10回 施設より2名受講
9	1	絆の日	○					昼食時、防災備蓄食提供
	15	敬老祝賀の集い	○					
	20	敬老お祝い膳	○					
	22	施設内研修「スキルアップ」		○				12名参加 研修委員会
	23	おはぎ作り	○					ご利用者と
	28	施設内研修「廃用性症候群を知ろう」		○				延べ45名参加 褥瘡予防対策委員会 同内容にて10/3実施
10	7	施設内研修「排泄を知ろう」		○				延べ41名参加 排泄ケア検討委員会 同内容にて10/17実施
	12	オータムコンサート	○					たんぽぽの会・フレンドハーモニー の皆様による
	17	施設内研修「排泄ケア」		○				
	18	秋刀魚の日	○					
	19	理事会開催					○	
	26	常盤台大運動会	○					

事業月日		内容	分類					備考
			行事等	研修	見学 取材	人事	その他	
月	日							
10	31	施設取材			○			神奈川県福祉人材センターより 外国籍職員の就業について ビデオ提供
11	3	書の会(文化祭)	○					ご利用者の作品を施設内に展示 鑑賞会を行う
	10	ご利用者の皆さまとの懇談会	○					ネオマルシェにて開催
	11	職員インフルエンザワクチン接種					○	初日
	17	ご利用者インフルエンザワクチン接種					○	
	18	施設取材			○			雑誌「レクリエ」
	24	施設内研修「SGK×事故防止研修」		○				23名参加 SGK×事故発生防止委員会
	25	施設内研修「危険予知トレーニング」		○				25名参加 事故発生防止委員会
	26	施設内研修「教えて！リーダー」		○				18名参加
	29	「嚙下障害」研修		○				24名参加 講師：湘南泉病院初谷医師 オンライン
12	2	法人指導監査					○	
	6	サムシングコンサート(点灯式)	○					コーラスグループサムシング来所
	9 13	施設内研修「感染症対策」		○				27名参加 講師：高橋幸雄顧問
	14	クリスマスコンサート	○					たんぼぼの会、フレンドハーモニー の皆さま来所
	15 22	ご利用者コロナワクチン接種					○	
	16	たまプラーザ地域ケアプラザ		○				施設長研修講師
	19	クリスマスバイキング	○					
	28	おもちつき	○					
		仕事納め職員納会					○	
1	1	元旦お祝い膳	○					
	7	新年祝賀の集い	○					
	16	神奈川県テレビ 施設取材			○			緊急ショートステイについて
		ファーストステップ研修 (神奈川県高齢協主催)			○			施設長研修講師
	17	入居者健康診断	○					126名受診
	21	常盤台連合町会 50周年式典参加					○	

事業月日		内 容	分類					備 考
			行事等	研修	見学 取材	人事	その他	
月	日							
1	23	組み初め式	○					
	24	鍋の日(2番街)	○				以降番街ごとに実施	
		コロナ陽性者ショートステイ開始				○	横浜市新規事業	
	30 31	施設内研修 「平成若者図鑑上映会」		○			延べ19名参加 研修委員会	
2	3	節分豆まき	○					
	9	外部研修「外国籍職員交流会」		○			福祉事業経営社会主催 以降、複数日にわけ職員交代で参加	
	14	いいね！いいね！大会		○			施設内活動報告会	
	15	摂食嚥下に関わる講習会		○			26名参加 保土ヶ谷区医師会主催 リモートでの参加	
	20	実習生受入				○	湘南医療福祉専門学校より 介護福祉士実習2名	
	27	施設内研修「看取りについて」		○			研修委員会	
3	1	外部研修「食品衛生責任者講習」		○			施設栄養士2名出席	
	5	桃の節句茶会	○				山路先生来所	
	9	人事考課説明会				○	外国籍職員向け	
	11	絆の日	○				昼食時防災備蓄食提供	
	12	年次停電検査				○		
	16	施設見学			○		中国遼寧省 福祉事業経営社会来所	
		東京入管訪問調査				○	数年間に1度の定期的な調査 指摘等はなし	
	24	理事会開催				○		
		ぼたもち作り	○				ご利用者と	
	26	開設12周年記念感謝の集い	○				職員慰労会として開催	
	28	施設内研修「生活習慣病」		○			初谷医師講師 労働安全衛生委員会主催	

事業報告書

委員会名称	行事委員会										
報告書作成日	2023年4月11日	委員長	由井 崇之（介護・主任）								
構成委員	石塚翔太（介護・副主任）、チニ（介護）、田中揚子（介護） 長内裕之（介護）吉川ミラソール（介護）武藤貴子（看護）										
スーパーバイザー	高橋好美（統括施設長）										
活動期間	2022年4月1日	～	2023年3月31日 12ヶ月間								
<p><目的及び課題></p> <p>ご利用者のあらゆるニーズに応えるべく、四季に合った行事を開催し、日常生活の活動の活性化を図る。今年度もコロナ禍の為行事の開催は縮小や変更し感染対策を徹底した上で開催し、企画し実施した。</p> <p><活動日></p> <p>毎月第二火曜日</p> <p><実施内容及び結果></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実施日／行事名</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7月3日 七夕茶会</td> <td>1番街マルシェにて山路宗勝先生（山路勝子先生）のお点前でご利用者の皆様にお抹茶を召し上がりながら、厳かな雰囲気味わい普段とは違う時間を過ごしていただいた。短冊に願い事を書き、各番街の笹に結び飾り七夕を各々で楽しんだ。</td> </tr> <tr> <td>6月29日 中華バイキング</td> <td>1番街マルシェ・5番街ネオマルシェ、各番街にて開催する栄養食事委員会と合同で行い、佐原理事長に紹介いただいたミシュランシェフによる、本格的な中華料理をご利用者の目の前で調理して頂き普段味わえない食の行事を楽しんで頂いた。</td> </tr> <tr> <td>8月17日 ビアガーデン</td> <td>実行委員会を中心に協力し開催。ご利用者と職員が共に楽しみ、昨年出来なかった盆踊りや花火師による花火を開催する事が出来た。又、外国籍職員のお国料理を屋台として展開し、ソウルフードをご利用者と職員と共に味わって頂いた。普段一緒に食事をする機会がないので、花火を見ながら、コロナ禍においてもご利用者と一緒に夏の季節を感じ楽しむ事ができた。</td> </tr> </tbody> </table>				実施日／行事名	内 容	7月3日 七夕茶会	1番街マルシェにて山路宗勝先生（山路勝子先生）のお点前でご利用者の皆様にお抹茶を召し上がりながら、厳かな雰囲気味わい普段とは違う時間を過ごしていただいた。短冊に願い事を書き、各番街の笹に結び飾り七夕を各々で楽しんだ。	6月29日 中華バイキング	1番街マルシェ・5番街ネオマルシェ、各番街にて開催する栄養食事委員会と合同で行い、佐原理事長に紹介いただいたミシュランシェフによる、本格的な中華料理をご利用者の目の前で調理して頂き普段味わえない食の行事を楽しんで頂いた。	8月17日 ビアガーデン	実行委員会を中心に協力し開催。ご利用者と職員が共に楽しみ、昨年出来なかった盆踊りや花火師による花火を開催する事が出来た。又、外国籍職員のお国料理を屋台として展開し、ソウルフードをご利用者と職員と共に味わって頂いた。普段一緒に食事をする機会がないので、花火を見ながら、コロナ禍においてもご利用者と一緒に夏の季節を感じ楽しむ事ができた。
実施日／行事名	内 容										
7月3日 七夕茶会	1番街マルシェにて山路宗勝先生（山路勝子先生）のお点前でご利用者の皆様にお抹茶を召し上がりながら、厳かな雰囲気味わい普段とは違う時間を過ごしていただいた。短冊に願い事を書き、各番街の笹に結び飾り七夕を各々で楽しんだ。										
6月29日 中華バイキング	1番街マルシェ・5番街ネオマルシェ、各番街にて開催する栄養食事委員会と合同で行い、佐原理事長に紹介いただいたミシュランシェフによる、本格的な中華料理をご利用者の目の前で調理して頂き普段味わえない食の行事を楽しんで頂いた。										
8月17日 ビアガーデン	実行委員会を中心に協力し開催。ご利用者と職員が共に楽しみ、昨年出来なかった盆踊りや花火師による花火を開催する事が出来た。又、外国籍職員のお国料理を屋台として展開し、ソウルフードをご利用者と職員と共に味わって頂いた。普段一緒に食事をする機会がないので、花火を見ながら、コロナ禍においてもご利用者と一緒に夏の季節を感じ楽しむ事ができた。										

9月15日 敬老祝賀の集い	1番街マルシェにて式典の部と演芸の部に分けご長寿のお祝いを行った。第一部の式典ではご利用者の長寿のお祝い。第二部の職員が演芸を行い楽しんで頂いた。敬老メッセージカードと共に、居室内で使用できるブックスタンドを贈呈した。
10月26日 常盤台秋の大運動会	今年は、1番街と5番街を2会場使用し、同時進行し競技を行う。その後、1番街マルシェにて職員対抗を行い優勝を決めた。2番街の初優勝で怪我無く終える事が出来た。ハラハラ、ドキドキと大きな歓声を上げながら楽しむ事ができた。
12月 クリスマス	バイキングでは栄養食事委員が主催し、行事委員は各番街毎にクリスマスツリーの準備をし、テラスにはイルミネーションを設置しクリスマスの雰囲気演出。当日プレゼントするクリスマスカードの作成を行った。
12月28日 お餅つき	年末恒例のご利用者と職員で1番街マルシェにて“お餅つき”を行いつきたてのお餅を味わって頂いた。
1月7日 新年祝賀の集い	各ユニット、共用スペースに正月飾りを飾り、新年を迎えた。年の初めを琴・尺八（米田様、井口様）の演奏、大塚先生、秀美会社中の皆様による民謡をご利用者と一緒に楽しみ、賑やかに祝った。
2月3日 節分豆まき	鬼と年男年女が各ユニットを訪れ『魔目（豆）』を撒いて、邪気を追い払い、一年間の無病息災を祈願した。
3月5日 ひな祭り茶会	1番街マルシェにて山路宗勝先生（山路勝子先生）よりお点前して頂き厳かな雰囲気を味わい普段とは違う時間を過ごしていただいた。また、各番街の共用スペースに雛人形を飾り、桃の節句の雰囲気を楽しんでいただいた
4月4日 お花見の会	今年度も外でのお花見は自粛し米田先生によるお琴の演奏を楽しみながら1番街、各番街にてお花見弁当を召し上がっていただいた。1番街にて米田先生にお琴の調べを全館放送で各番街に演奏を流した事で全てのご利用者楽しんで頂く事ができた。また各番街にも桜の花を生けて見て頂いた。 会とは別日に、コパンの丘に咲いた桜を各番街の職員、事務の方と協力しご利用者とお花見を行う事ができた。

<2022 年度総括>

- ・今年度もコロナ禍のため通常の行事の開催が難しく、縮小や変更して開催した。
- ・増設に伴い 1 番街のみだけでなく 5 番街も会場とし行事にあわせて会場設営を行った。
- ・行事はご利用者が楽しみにされている事なので、外出行事は中華バイキング、サマーフェスタはビアガーデンとして恒例行事に代わる行事を開催することで楽しんでいただきました。
- ・敬老祝賀の集いや運動会、クリスマスに新年祝賀の集いは規模の縮小や形式の変更で開催、楽しんでいただくことができた。
- ・季節に合わせた行事を開催することにより、ご利用者に施設の中に居ながらも季節の移り変わりを感じて頂くことが出来た。
- ・ネオマルシェの会場を上手く活用する事が出来ている。行事毎に会場など利点を活かした開催ができた。

行事を企画、運営していく中で事前の準備が大切で必要であり、行事委員が中心となりながら、職員ひとりひとりが行事に関わる意識を高めていく事も重要であると感じた。新しく行事委員会の一員となった職員へはしっかりと引き継ぎが行えなかった事が挙げられる。情報の共有と経験という面では今後も伝えて行かないとも感じている。

また新棟も増えたことにより今まで以上に危機管理、情報の共有が必要であり、ご利用者が安全に行事を楽しんで頂けるよう配慮も必要だと思われる。規模も大きくなっているが出来ない理由を探すのではなく、できるようにどうしたら良いのかという前向きな運営を今後も求められる。

<次年度に向けて>

- ・コロナ禍の中、時のニーズに合わせて感染対策を行いながら開催する。
- ・行事開催するうえで事前準備、お互いの役割を理解、共有、周知し情報の共有、他職種との連携を強化し質の高い行事を開催する。
- ・新棟も増え再度、危機管理の徹底を行いご利用者が安心、安全に行事へ参加できるように取り組みを行い開催する。
- ・委員の中には、事前準備をしていたが、当日は勤務が夜勤だったり、休みになっている現状があった。各番街の勤務調整にも配慮していく必要がある。
- ・行事の準備方法等、委員同士での引き継ぎ共有を深める。
- ・次年度は行事毎、各番街へと担当を振り分け行う。行事委員の今後の動きはサポートする。各主任、副主任を中心に行事を運営していく事も検討、課題と考える。

以上

事業報告書

委員会名称	研修委員会			
報告書作成日	2023年4月30日	委員長	小川 美華(介護・副主任)	
構成委員	鈴木秀和(介護・主任)、齋藤舞(支援・主任)、長島明子(介護)、メアス・ペン(介護)、 ミン・マウン(介護)、後藤グレンダ(介護)、菅井保久(介護)			
スーパーバイザー	高橋哲洋 (支援・課長)			
活動期間	2022年4月1日	～	2023年3月31日	12ヶ月間
<p><目的及び課題> 研修の企画、運営、施設内研修実施報告書の提出、研修実施後のフィードバックの実施。</p> <p><活動日> 毎月第一水曜日</p> <p><実施内容及び結果> 年間研修予定表を作成し他委員会と研修がかぶらないように調整。運営基準による研修、資格取得を目的とした研修の企画、運営の実施。昨年度に続き教えてシリーズとして「教えて、リーダー研修」の開催。他委員会主催の研修の運営・サポートをした。 年間で開催された研修は以下のとおり。 2022年度 研修一覧</p>				
日時	テーマ	講師	参加人数	時間(分)
5月11日	日本語講座	佐藤 祥子先生	9	90
5月23日	日本語講座	佐藤 祥子先生	13	90
6月16日	日本語講座	佐藤 祥子先生	6	90
6月28日	日本語講座	佐藤 祥子先生	8	90
7月6日	日本語講座	佐藤 祥子先生	9	90
8月23日	日本語講座	佐藤 祥子先生	11	90
9月5日	日本語講座	佐藤 祥子先生	9	90
9月20日	日本語講座	佐藤 祥子先生	8	90
10月6日	日本語講座	佐藤 祥子先生	11	90
10月17日	日本語講座	佐藤 祥子先生	9	90
12月1日	日本語講座	佐藤 祥子先生	8	90
12月13日	日本語講座	佐藤 祥子先生	7	90

1月10日	日本語講座	佐藤 祥子先生	6	90	
1月26日	日本語講座	佐藤 祥子先生	5	90	
2月15日	日本語講座	佐藤 祥子先生	5	90	
2月27日	日本語講座	佐藤 祥子先生	5	90	
小計		参加人数 129人	時間	1440分	
8月16日	スキルアップ研修	高橋好美 施設長	9	120	
9月27日	スキルアップ研修	高橋好美 施設長	10	120	
10月18日	スキルアップ研修	高橋好美 施設長	10	120	
11月22日	スキルアップ研修	高橋好美 施設長	13	90	
12月14日	スキルアップ研修	高橋好美 施設長	10	120	
1月12日	スキルアップ研修	高橋好美 施設長	10	120	
1月18日	スキルアップ研修	高橋好美 施設長	11	120	
小計		参加人数 73人	時間	810分	
4月5日	権利擁護研修	高橋好美 施設長	29	120	
4月13日	しわ上映会	なし	16	90	
4月15日	しわ上映会	なし	9	90	
4月17日	しわ上映会	なし	10	90	
4月27日	しわ上映会	なし	6	90	
5月30日	しわ上映会	なし	4	90	
6月13日	感染症食中毒予防研修	社会福祉法人育明会 高橋幸雄法人顧問	50	90	
6月21日	感染症食中毒予防研修	社会福祉法人育明会 高橋幸雄法人顧問	33	90	
4月20日	ケアパレット操作説明会	高橋哲洋 支援サービス課長	19	90	
5月17日	ケアパレット操作説明会	高橋哲洋 支援サービス課長	3	120	
5月20日	ケアパレット操作説明会	高橋哲洋 支援サービス課長	3	150	
5月25日	ケアパレット操作説明会	高橋哲洋 支援サービス課長	23	120	
5月27日	ケアパレット操作説明会	高橋哲洋 支援サービス課長	9	120	
5月30日	ケアパレット操作説明会	高橋哲洋 支援サービス課長	9	120	
6月7日	ほのぼの帳票説明会	NDソフト 後藤様 高橋哲洋 支援サービス課長	16	120	
6月27日	ケアパレット研修	高橋哲洋 支援サービス課長	20	405	
6月28日	ケアパレット操作説明会	高橋哲洋 支援サービス課長	7	120	
6月29日	ケアパレット操作説明会	高橋哲洋 支援サービス課長	7	120	
7月18日	かながわ大会視聴会	高橋哲洋 支援サービス課長	11	60	
8月4日	社会保障について	第一生命 丸山様	10	60	

8月10日	身体拘束廃止研修	高橋好美 施設長	19	90
9月28日	廃用症候群を知ろう	高橋好美 施設長	16	95
10月3日	廃用症候群を知ろう	高橋好美 施設長	29	90
10月7日	排泄を知ろう～排泄とは何？～	高橋好美 施設長	20	90
10月17日	排泄を知ろう～排泄とは何？～	高橋好美 施設長	21	90
11月24日	SGK×事故防止合同研修	高橋好美 施設長	23	120
11月25日	事故防止研修 ～危険予知トレーニング～	高橋好美 施設長	25	105
11月26日	教えて、リーダー研修	高橋哲洋 支援サービス課長 廣瀬和展 介護サービス課長 古屋倫子 介護サービス主任 鈴木秀和 介護サービス主任 由井崇之 介護サービス主任 石間雄人 介護サービス主任	18	120
11月29日	湘南泉病院 摂食嚥下チームの取り組みについて	湘南泉病院 初谷先生 言語聴覚士	24	90
12月9日	感染症食中毒予防対策研修 季節感染症と吐物処理方法	社会福祉法人育明会 高橋幸雄法人顧問	27	90
12月13日	感染症食中毒予防対策研修 季節感染症と吐物処理方法	社会福祉法人育明会 高橋幸雄法人顧問		90
1月30日	平成若者仕事図上映会	なし	11	30
1月31日	平成若者仕事図鑑上映会	なし	8	30
2月15日	摂食嚥下障害と誤嚥性肺炎の対策	保土ヶ谷ヒルズ歯科 林先生 横浜市民病院看護課長 猪崎先生	26	90

小計 参加人数 561 人 3575 分

合計 参加人数 763 人 5825 分

<2022 年度総括>

年度初めに年間研修予定表を作成し、研修を実施した。研修委員会が主催する研修は勿論、他委員会が主催する研修にも委員として参加し、事前準備やサポートを行う事で円滑に研修を運営する事が出来た。昨年度より開催している「教えてシリーズ」研修として今年度は各番街の主任に協力を仰ぎ「教えて、リーダー」研修を開催した。この研修は普段リーダー業務を務めている主任たちに普段悩んでいることや疑問、質問などを聞く場として開催した。研修を開催するにあたり各番街の主任たちに参加してもらう為、事前に情報の共有をし参加してもらうように調整した。その結果、全番街主任の参加、また新人職員が多

く参加して下さり今悩んでいる事や疑問質問を直接聞きそれに主任たちが答えることで問題や悩みの共有が出来、職員同士の中も深まったと考えられる。

<次年度に向けて>

今年度も今まで通り運営基準の研修の開催やスキルアップ研修などを開催し、研修回数としては昨年度と変わらなかったが、参加人数が昨年度に比べ約50%も減少していた。いいねいいね大会で発表をした際に施設長より原因を調べるのもいいとアドバイスを頂き、現在全職員対象に研修参加についてのアンケートを配布している。次年度はアンケートの集計をし原因を究明して研修の参加率を上げ、職員のさらなるスキルアップに尽力していきたいと思う。

以上

事業報告書

委員会名称	S・G・K委員会		
報告書作成日	2023年5月8日	委員長	仲程 優子
構成委員	仲程優子（介護副主任）・清水亮兵（介護）・松井真志（介護）・山田翔太（介護）・土山直人（介護）・ダボ奈津子（看護）・古屋倫子（介護・主任）		
スーパーバイザー	高橋哲洋（支援・課長）		
活動期間	2022年4月1日	～	2023年3月31日 12ヶ月間
<p><目的及び課題></p> <p>対人援助職として、利用者様に敬意をもって対応することなど、権利擁護についての認識をもってもらふ事を目的とする。職員の日頃の利用者対応、言葉遣い、行動を新人職員のみならず、先輩職員の方に適切なケア方法を指導していくことを課題に活動する。</p> <p><活動日></p> <p>毎月第4月曜日</p> <p><実施内容及び結果></p> <p>①虐待の芽チェックリストの実施</p> <p>毎年行っている虐待の芽チェックリストを職員全員対象に行った。7月の職員会議に告知し8/8全職員へリスト配布行い、8/22回収。集計行い前年に比べ回収率よく概ねの職員が提出している。回答の中で言葉遣いの悪い職員を見たこと、聞いたことがあると回答があり一部の職員が敬意をもっての対応が出来ていない事が見られるのでリスペクトケアを浸透していきたい。</p> <p>②標語の募集 テーマ「あなたの考える常盤台の介護とは」実施</p> <p>8月の職員会議にてリリースおこない、全職員を対象に標語の募集を行った。外国籍の職員にも分かりやすいようにポスターにルビを振り掲示した。全職員が提出できるように3週間の募集期間を設けた。(9/1~9/22一人につき2作品まで)</p> <p>応募期間終了後は1番街マルシェに掲示し一人1票で良いと思った標語に投票してもらい、優秀作品の選出を行う。</p> <p>優秀賞 : 世界は一つ。心も一つ。ワンチーム！こそ常盤台</p> <p>最優秀賞 : 常盤台のケアは単なる「お世話」ではなく「その人らしい生き方」をサポートする介護です</p> <p>施設長賞 : 仕事を愛し、仕事を乐みます (Love your work and will enjoy to work)</p> <p>理事長・廣瀬賞 : “すみません”ではなく“ありがとう”がもらえる介護</p> <p>川野賞 : 心から実行しよう利用者様ファースト</p> <p>高橋賞 : 私たちのモットーはその人の「らしさ」を守ることです</p> <p>奥村賞 : 国籍・学歴・考え方・年齢に左右されずに統一したケア。それが常盤台の介護です。</p>			

委員会賞：気持ちのゆとりから澄んだ空気からやさしい介護が生まれる

③研修の実施

身体拘束廃止研修実施（7月）

実際の身体拘束グッズを使用体験しグループワークにて意見交換が行われた。

身体拘束グッズを初めてみる職員も多かった。



11月の研修委員会、事故発生防止委員会合同の研修を行った。

動画作成による研修で映像にて考えられる要素も多くグループディスカッションではさまざまな意見がでておりいつもより時間をかけた研修であった。権利擁護、虐待防止の二つの視点から考える事ができた研修であった。

<2022年度総括>

今年度より権利擁護委員会改めS・G・K委員会へ名称が変更になった。

S 身体拘束、G 虐待防止、K 権利擁護の略である。

虐待の芽チェックリストは、一人一人が行っているケアや業務に問題がないと言えるように、そして統一したケアやリスペクトケアが浸透していくように関心を持ってもらうために続けていくことが必要である。

研修の定期開催では研修委員や事故発生防止委員会など応援いただき準備や片付けなどスムーズに行う事が出来た。

事故発生防止委員会合同の研修ではリスペクトケアとはなんなのかということを知りやすく問う為に映像にすることで考える要素も多く様々な意見があり今後の質の高いケアを目指す事に繋がったと思われる。

<次年度に向けて>

虐待の芽チェックリストの実施

研修の定期開催、リスペクトケアを全職員へ浸透させるためにも研修参加人数を増やす。

職員のケアの意識向上のための標語募集実施。

事業報告書

委員会名称	広報委員会		
報告書作成日	2023年 4月 29日	委員長	小久保雄紀（介護）
構成委員	斎藤舞（主任）今井こずえ管理栄養士（主任）石塚翔太（介護・副主任）大石亜樹（介護・副主任）小久保雄紀（介護）雑賀郁海（介護）石間雄人（介護・主任）松本綾（介護）久保寺良次（介護）		
スーパーバイザー	高橋好美（施設長）		
活動期間	2022年4月1日	～	2023年3月31日 12ヶ月間
<p><目的及び課題></p> <p>① イベントの際には委員がカメラマンとして同行し撮影を行った。 施設にあるさんしょの木に幼虫が止まっており調べたところアゲハ蝶だった為職員による成長記録をつけていた事を記事に取り上げた。 記事の写真は委員で選出をし記事に至るまでに施設長よりアドバイスを頂きイベントの雰囲気が伝わるように意識した。 写真にストーリーがある事を意識し撮影の際には一瞬一瞬の大切な瞬間を意識しながら撮影を行った。 委員会では記事や写真の反省会をし翌月の記事をよくするような話し合いをした。</p> <p>② Only Oneの収集と過去の記事から抽出し過去の編集者へ依頼をする。 10年史刊行により常盤台便りに謎かけのような予告をした。 常盤台10年の膨大な歴史から施設長自らベストショット選び完成に至った。</p> <p><活動日></p> <p>委員会は第3木曜日16時半より開催。ご家族様や利用者様にイベントやお知らせを「常盤台便り」に載せ施設の掲示板に貼ったりご家族様には郵送する。希望がある利用者様には配布している。常盤台便りの連載記事の「Only One」の集大成として10年史が刊行された「常盤台便り」は毎月発行している。</p> <p><実施内容及び結果></p> <p>10年史のアンケートを取った結果 施設職員「ご利用者の穏やかで少しでも幸せな人生のお手伝いができるように改めて頑張りたいと思いました」との声がありました。 ご家族様からの声としては「いつも主役は入居者の方々で一人一人を大切に接して頂いていることが伝わってくる」や「夫はなくなっているが10年史に名前が残っていたり母の写真が載っているのが皆様の中にも残っているのが嬉しい」との声を頂き職員やご家族様にとっても大きな物になったと思える。 外部から記事を見た方の話しでは自由に広報されており他の施設では見た事ないと声を頂きました。</p> <p><2022年度総括></p> <p>イベントの際の撮影及び委員会での記事や写真の反省をし毎月発行の常盤台便りを続けていった。その中の誰にも大切にしている物や思い出に焦点を当てる代表的な Only One の集大成としての10年史の発行が一番大きな物であった。</p> <p><次年度に向けて></p> <p>以前から課題の写真の技術の向上を目指し一瞬一瞬を大切にしたい写真や飽きられない記事作りをしこれからも常盤台便りを楽しみにされている方の為に精進していきたい。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>			

事業報告書

委員会名称	感染症・食中毒予防対策委員会		
報告書作成日	2023年4月10日	委員長	遠藤 歩(介護)
構成委員	仲程優子(介護副主任)・城田宏子(介護)・今井こずえ(栄養係主任) 高橋美和(看護副主任) 廣瀬聡美(介護)・李昌淳(介護)・メアスペン(介護) チニ(介護) 東山明美(支援課事務)		
スーパーバイザー	川野ひとみ(看護サービス課長・SV)		
活動期間	2022年4月1日	～	2023年3月31日 12ヶ月間
<p><目的及び課題></p> <p>「罹らない、持ちこまない、拡げない」を合言葉に、委員が中心となって感染症・食中毒予防対策に施設全体で取り組む。</p> <p>今年度も新型コロナウイルスの最新情報を含めた感染症の研修を年間2回開催する</p> <p><活動日></p> <p>毎月第3金曜日</p> <p><実施内容及び結果></p> <p>1. 手洗い・手指アルコール消毒の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議や書面で啓蒙活動し徹底出来る様にした。 ・アルコール消毒液の設置 <p>新型コロナウイルス発生後は職員通用口、玄関、トイレや更衣室、ケアステーションなどに設置した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者に食事前の手指のアルコール消毒が習慣化できるようにしたが、できていない番街もあり、今後も習慣化できるように委員が率先して行っていく。 <p>2. 換気の徹底・加湿の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・換気マニュアルに沿って換気を徹底したが、確実にできていない状況であったことから、取り組みを強化した ・リーダーや委員を中心に確実に実施出来る様に周知・徹底した。 ・換気のポスターを作成し、エレベーター内や掲示板などに掲示した。 ・冬季には湿度管理も重要であるため、換気・加湿強化月間のポスターを新たに作成し徹底した。 ・厨房は昼の休憩時間に換気を行い、厨房のドア、職員通用口の扉、マルシェの扉を開放し常に施設内に空気が循環している様にした。今年より空気清浄機を増設し可動させている。 ・訪問者の多い1番街や5番街は常に2箇所窓を開け、空気の入れ替えができるよ 			

うにした。

3. アルコール消毒

職員が共有で使用する食事のテーブル、ロッカー、トイレなどの場所、複数で使用するパソコン、電話、手すり、ドアノブ、エレベーターのボタンなどはクリーンチームを中心にアルコール消毒を行なった。

4. 来館者への対応

主に支援課、事務課で行っている。ご利用者と対面での面会は事前予約制で、30分までとし、密になるのを避ける為1時間に1組ずつとした。又、面会時は玄関での手指の消毒、靴の裏のアルコール消毒をし、検温、マスクの交換をしてから施設へ入って頂く様にした。

5. 職員への対策

- ・出勤前に体調確認表への記入。
- ・自身や家族で体調のすぐれない者がいる場合には出勤前に上長に指示を仰ぐようにしている。
- ・勤務中はロッカー内での密をさけ会話を避ける。
- ・食事時の密を避ける為に、1番街はもとより各番街でも換気をしながら食事摂る。黙食を徹底した。

6. 研修の開催

- ・1回目は6月に2回実施 テーマは「食中毒について」とガウンテクニックの実技（事前に動画撮影） 講師は育明会顧問高橋幸雄先生 参加人数は約70名
- ・2回目は12月に2回実施 テーマは「季節感染症と嘔吐物の処理」
講師は6月同様高橋幸雄先生 参加人数は約60名
講師より嘔吐物処理の手順の変更があり、新しい手順が周知できるように講師より動画撮影を行ったが、周知できるまでにいたらなかった。
また嘔吐物処理の手順変更に伴い、各ユニットの物品を新たに準備した。
- ・年2回の研修は必須研修だが、参加者が少なくなっている。研修の時間帯も含め検討していく必要がある。

<2022年度統括>

- ・換気や加湿、手指のアルコール消毒が確実に行われていない事が委員会内の意見として上がった。常々行っている感染症対策がルーチン化されていない事実を受け止め、連絡ノートを活用、換気強化月間のポスターを作成し掲示した。
しかし、確実に行えているまでに至らなかったことが課題として残った。
- ・職員・ご利用者共に新型コロナウイルスに感染・発症したが、感染が拡大しなかったのはガウンテクニック、換気やアルコール消毒等を職員1人1人がしっかり

行なった成果といえる。

今後も委員として予防対策が徹底していけるように働き続けたいと思う。

<次年度に向けて>

- ・換気や、アルコール消毒等はすべての感染症対策に置いて重要なことであり、決して怠ってはならない。時間が経つと意識が薄れてしまう現状をどのように工夫し、職員1人1人に意識付けしていくかが来年度への課題。又、来年度は確実にすべての感染症対策を行えるようにしたい。
- ・研修の内容の周知方法についても引き続き検討が必要。

以上

事業報告書

委員会名称	栄養食事委員会		
報告書作成日	2023年5月4日	委員長	鈴木秀一（介護・副主任）
構成委員	廣瀬真寿美（介護）、フェン（介護）、アリーナ（介護）、田中楊子（介護）、メシエル（介護） 西巻大輔（介護）、今井こずえ（管理栄養士・主任）、柳沢愛美（栄養士）、薄倉由美子（洗濯）		
スーパーバイザー	高橋好美（施設長）		
活動期間	2022年4月1日	～	2023年3月31日 12ヶ月間

<目的及び課題>

利用者様に季節や旬の食材を感じて頂けるように、季節や年間行事に合わせたイベント食の企画・実施の取り組み、普段のお食事においても利用者様、職員からの気になる点などを委員会で協議し、よりよいお食事の時間を過ごせるように努めた。

<活動日>

毎月第2水曜日。

<実施内容及び結果>

◎季節や年間行事に合わせたイベント食の企画・実施

実施日	実施イベント
6月29日	中華バイキング
9月20日	敬老祝い膳
10月18日	秋刀魚の日
12月19日	クリスマスバイキング
1月1日	元旦祝い膳
1月中旬～下旬	鍋の日（各番街ごとユニットで実施）

○昨年度から続いているコロナウイルス感染症の中でも、外出する機会が少ない利用者様にとって施設内で四季を感じ、楽しんで頂くべく感染者を出さぬよう今年度も各行事食の準備を行った。

・6月中華バイキング

2年振りの開催となった今回の中華バイキングは理事長が金沢で出会った中華のミシュランシェフをお招きしての開催となり1番街、5番街、各番街で本格的な中華料理を楽しんで頂いた。会場作りや衣装にもこだわりソフト食以下の食事作りにも力をいれご利用者も笑顔が多く大盛況に幕をとじた。いいねいいね大会では中華バイキングにスポットをあて報告をし2つの賞を頂く事ができた。

・9月敬老祝い膳

今年度もコロナウイルス感染症の対策をしっかりと行いながら、マルシェ・ネオマルシェをメイン会場に行うことができた。メニューはお寿司のバイキング。利用者様からは、お寿司のおかわりとビール、日本酒、焼酎などのオーダーも多数いただいた。

・10月秋刀魚の日

今年は秋刀魚の価格が高騰していたが例年通りの立派な秋刀魚で備長炭を使用した炭焼きで提供することができた。また、農園の金時芋と、紫芋を使用した2色のお芋ご飯も提供。ご利用者様には、「炭で焼いた秋刀魚は美味しかった！」「秋刀魚、食べられて良かった」「お芋ごはん綺麗で美味しかった」という感想が聞かれ、秋を感じていただく事ができた。

・12月クリスマスバイキング

理事長お手製のローストビーフ、ポーク、チキン、などをメインに、サラダ、ケーキバイキングを用意し、クリスマスパーティーを楽しんで頂いた。

・1月元旦祝い膳

新年を迎え、お節料理やお雑煮などを用意しお祝い膳を召し上がっていただいた。

・1月鍋の日

常盤台農園の野菜を使用した湯豆腐を提供。普段あまり量を召し上がらない方がおかわりを何度もしていた。「野菜が柔らかくて甘くて美味しかった」と仰る利用者様が多かった。昨年度より準備や提供がスムーズに行われた。

番街が多く年数を重ね職員も慣れてきていると思われる。

◎食事、水分提供のコップについて

既存で使用しているメラミンのコップの劣化や汚れがあり委員会内で検討し陶器のコップを重さや大きさ、価格を考慮しながら新たに購入し使用を開始した

◎食事摂取シートについて

管理職会議で栄養補助食品や汁物の記載が出来ないかと提案があり委員会で各番街共通の記載方法でのフォーマットの見直しを行い新しい食事摂取シートのリリースを行った。

<2022 年度総括>

昨年度に引き続きコロナウイルス感染症というウイルスに悩まされる1年であったが、利用者様の楽しみや生きがいを損なうことがなく、季節や旬の食材を感じていただけるように、昨年の行事食の経験を踏まえ栄養食事委員だけでなく、他部署の職員の協力のもと行事食を実施することができた。

新棟がオープンしたことで、メイン会場をマルシェ・ネオマルシェの2会場となり、行事食毎に利用者様の食事形態やバイキングの行い方、誘導方法などを施設長のスーパーバイズを基に工夫して開催することができた。またメイン会場が2会場となり、高橋課長による音響設備等を用いてお互いの会場を映像で見ることができ、お琴の演奏や音楽などを全館放送し、番街で召し上がっていらっしゃるご利用者様にもメイン会場と同じ雰囲気を作ることができた。その一方で委員会メンバーの入れ替わりなどで企画や準備に遅れが出てしまった点は今後の課題と思われる。

普段のお食事においても、食事について固さやトロミの具合、食事用バンダナの追加、食具の管理等の改善をすることができた。

<次年度に向けて>

- ・コロナウイルス感染症の対策をしつつ例年通り旬の食事を提供できるように企画する。
- ・日常的な食事を安全で召し上がっていただけるよう課題の抽出と検討。
- ・新規の職員にも企画や準備に関わってもらい指導しながら委員全員で協力して行事食の提供に遅れのないように進めていく。

以上

事業報告書

委員会名称	褥瘡予防対策委員会		
報告書作成日	2023年5月5日	委員長	古屋倫子(介護・主任)
構成委員	高橋美和(看護・副主任) 瀧澤素子(介護・副主任)、清水亮兵(介護)、良元瑞(介護)、遠藤歩(介護)、李昌淳(介護)、西野ロウィーナ(介護) 高橋留美子(看護)		
スーパーバイザー	川野ひとみ(看護・課長)		
活動期間	2022年4月1日	～	2023年3月31日 12ヶ月間
<p><目的及び課題></p> <p>毎月委員会を開催しご利用者の褥瘡の状態を把握し個々の症状に応じた対策を協議し、他職種と連携しながら様々な観点からの予防、早期発見、治療に努める。</p> <p><活動日></p> <p>毎月第3月曜日 16時以降開催</p> <p><実施内容及び結果></p> <ol style="list-style-type: none"> 1、全利用者を対象に3か月ごとにブレデンスケールを使用した評価を担当 CW が実施し、褥瘡発生リスクの把握を行った。 2、毎月褥瘡発生・経過表を番街ごとに作成し、委員会で経過を発表、改善及び対応策を話しあった。 3、ブレデンスケールの評価によるハイリスク者と現在褥瘡があるご利用者に対して、褥瘡予防計画書の立案、実施、評価を行った。 4、褥瘡予防に取り組めるよう、施設長講師に廃用性症候群の研修を開催した。 5、毎月物品管理表の更新に努めた。 6、食事量の低下しているご利用者や新たに褥瘡が発生した方は、往診医へ報告しエンシュアHを処方して頂き栄養改善の補助食品として提供をした。 <p><2022年度総括></p> <ol style="list-style-type: none"> 1、褥瘡ハイリスク者は2023年1月時点19名となっている。退院後回復よくブレデンスケール数値が上がった方もいた。 2、番街ごとのご利用者の褥瘡発生・経過表を作成することで、発生部位、状態、処置方法、予防策、経過が把握でき共有し協議しやすくなっている。褥瘡に関しては繰り返し発生したり、新たに発生したり完治していない方がおり、対策を再度検討し周知していく必要がある。 3、9月10月に施設長を講師に褥瘡予防研修『廃用性症候群を知ろう』を開催した。参加者45名、褥瘡の正しい知識を得たうえで統一したケアが出来るようにして 			

いく必要がある。

4、各番街で物品の管理を毎月行うことになっていたが、更新するところまでいかなかった。

5、褥瘡予防という観点で基本的な予防策を再度徹底していく必要がある。

<次年度に向けて>

- ・委員会だけでなく、関わる職員が情報を共有し褥瘡予防や治療への対応を確実に行えるようにしていく必要がある。
- ・ケアパレットの導入により褥瘡の可視化や情報共有がしやすくなったため活用していきたい。
- ・引き続き予防策の呼びかけと研修で知識を共有し皆が日々のケアで褥瘡予防に意識し取り組めるようにしていきたい。
- ・物品の管理を継続して行っていく。

以上

事業報告書

委員会名称	排泄ケア検討委員会		
報告書作成日	2023年 4月 26日	委員長	滝澤素子(介護・副主任)
構成委員	桑原斉子(看護・主任)・小川美華(介護・副主任)・何英鵬(介護)・松井真志(介護)・山田翔太(介護)・メシェル(介護)・チュソンプー(介護)		
スーパーバイザー	廣瀬和展(介護サービス課長・SV)		
活動期間	2022年4月1日	～	2023年3月31日 12ヶ月間
<p><目的及び課題></p> <p>ご利用者の尊厳と健康を守る環境作りをし、また、見学や面会で来所される方々に臭いで不快な思いをさせないように、そして職員にとっても心配りができる環境を作ることを目的とし、「においを感じて、臭いに敏感に、シュッシュュッを合言葉に」をスローガンに委員が中心となって施設全体で消臭対策に取り組んでいる。</p> <p><活動日></p> <p>毎月第1木曜日</p> <p><実施内容及び結果></p> <p>1. ディオスプレーの個人購入</p> <p>尿臭が気になる、との意見から、どこから、何が、何で、原因を考え、一つ一つ取り除くために対策に取り組み、Pトイレを使用しているご利用者とBaカテーテル留置のご利用者にディオスプレーを個人購入していただき、尿の破棄ごとにシュッシュュッと！噴射し、リビング内居室内の尿臭対策を行った。</p> <p>週に一度、酢酸によるPトイレ清掃も合わせて行い、臭いがしなくなった、気にならなくなった、と意見を頂いた。</p> <p>2. 研修の開催</p> <p>消化器のしくみ、泌尿器のしくみ、排泄に関連したところとからだの基礎知識について、2回に分け全職員対象で研修を開催した。専門的な生理学を学ぶことで、身体の働きや排尿排便のプロセスについて知ることができ、ただやみくもに排泄介助に入るのではなく、有無の観察、性状を観察することは、ご利用者の健康のバロメーターになることを理解できた。</p> <p>3. 排泄バックの新規購入</p> <p>数年使っている、排泄バックに汚れがついていたり、中の生地が破けていたり、臭いが染みついていたため、各番街8個ずつ新規購入をした。</p> <p>リネンの池田さん協力のもと、内ポケットの作製をしていただき各番街に納品、</p>			

大きさが丁度よい、使いやすいと感想があり、利用者からは「どこかお出かけ？」
「もう帰るの」と声をかけられ、排泄介助だと気づかせないようなトートバック
を使用し、さりげない配慮に繋がっている。

4. いいね！いいね！大会

「臭いのない施設を取り戻そう！ 臭いに敏感に、臭いに対する意識を高めて」
と題して発表し、施設長賞を頂いた。賞品として、お食事会を開催、和気あいあ
いと活動について議論しあう場となった。取り組みを評価して頂いたこと、取り
組んだチームでお祝いしたことは確実にモチベーション UP に繋がった。

<2022 年度総括>

職員一人一人が意識すると、対策は結果につながることを実感した。
尊厳に配慮し適切なケアを行うため、臭いに敏感に、臭いに対する取り組みを
やり続け、言い続け、ルーティン化させていく必要性を感じ、ご利用者の生活の
場として、より良い環境作りを今後もしていかなければいけないと強く思った。

<次年度に向けて>

職員はマスクで臭いが気にならず、臭いがする環境に慣れてしまったのか、
一つ一つ解決するために、次年度も臭い対策を継続し今後につなげていきたいと
思う。消臭対策の周知と臭いが染みついているもの、車椅子・クッション・ベッ
トマットレスの清掃クリーニングと空いているベッドを使用しベッド本体を交換
するなど、対策を引き続き行うようにする。ウロバックの取り扱い、P トイレカ
バーの追加、オムツ棚の見直し、排泄表に記載のある排泄時間の見直しなど、
問題は山積み。しっかり次年度に引き継いでいきたいと思う。

以上

事業報告書

委員会名称	入浴ケア検討委員会														
報告書作成日	2023年4月26日	委員長	大石亜樹（介護・副主任）												
構成委員	栗原斉子（看護・主任）、野藤太一（介護・副主任）、廣瀬真寿美（介護）、アリーナ（介護）、チャム（介護）、小山ルーズ（介護）、長内裕之（介護）														
スーパーバイザー	廣瀬和展（介護支援課長）														
活動期間	2022年4月1日	～	2023年3月31日 12ヶ月間												
<p><目的及び課題></p> <p>入浴介助をいかに安心・安全・安楽にケアしていくのかを検討する。また、入浴剤を使用して温泉気分を楽しんで頂く。</p> <p><活動日></p> <p>毎月第二金曜日</p> <p><実施内容及び結果></p> <p>①湯めぐり温泉</p> <p>今年度もこれまでと同様に、湯めぐり温泉を実施した。開催日前にポスターを掲示し、周知をした。各委員で分担し、事前に入浴剤やCDの準備・ポスターの作成を行った。温泉の内容は以下の通りである。</p> <table border="1" data-bbox="199 1301 1299 1597"> <tr> <td>5月4～6日 菖蒲湯</td> <td>6月20～21日 ミステリー温泉</td> <td>7月18～20日 別府温泉</td> <td>8月22～24日 白浜温泉</td> </tr> <tr> <td>9月26～28日 登別温泉</td> <td>10月24～26日 箱根温泉</td> <td>11月28～30日 草津温泉</td> <td>12月21～23日 柚子の湯</td> </tr> <tr> <td>1月23～25日 奥蓼科温泉</td> <td>2月20～22日 和山温泉</td> <td>3月27～29日 さくらの湯</td> <td>4月24～26日 塩原温泉</td> </tr> </table> <p>②入浴バッグのポケットの導入</p> <p>紛失防止の為、補聴器、眼鏡等を入れるポケットをバッグ内側に装着してみても、との意見があり、5月より導入。職員に周知を図り、使用して頂く。小さい物の紛失トラブルは少なくなった、という意見が聞かれた。</p> <p>③入浴人数の変更と調整</p> <p>既存の入浴誘導表では、他番街のご利用者同士が同じ入浴場に入浴されるケースも多く、コロナや感染症のリスクが高い事と、入浴者が9名以上になると、職員</p>				5月4～6日 菖蒲湯	6月20～21日 ミステリー温泉	7月18～20日 別府温泉	8月22～24日 白浜温泉	9月26～28日 登別温泉	10月24～26日 箱根温泉	11月28～30日 草津温泉	12月21～23日 柚子の湯	1月23～25日 奥蓼科温泉	2月20～22日 和山温泉	3月27～29日 さくらの湯	4月24～26日 塩原温泉
5月4～6日 菖蒲湯	6月20～21日 ミステリー温泉	7月18～20日 別府温泉	8月22～24日 白浜温泉												
9月26～28日 登別温泉	10月24～26日 箱根温泉	11月28～30日 草津温泉	12月21～23日 柚子の湯												
1月23～25日 奥蓼科温泉	2月20～22日 和山温泉	3月27～29日 さくらの湯	4月24～26日 塩原温泉												

の負荷が大きくなる事が懸念事項であった。そこで、一般・リフトの入浴誘導表について、なるべく同じ番街同士のご利用者を同番街の入浴場に入れるようにし、かつ入浴人数を均等に振り分ける様、今年度より調整・検討を図った。FJ浴に関しても、なるべく同じ番街のご利用者が入浴出来る様、配慮した。変更後について、時間内に終わらない入浴がある場合、来年度以降も調整が必要であると考えられる。

④湯めぐり温泉の準備、物品場所のマニュアル化

委員会内での温泉の準備方法や、物品場所の引き継ぎに関して、属人化している部分が見られた為、委員会での温泉の準備方法、物品場所に関するマニュアル作成を行った。

<2022 年度総括>

今年度中に入浴の調整、変更を行う事は出来たが、次年度以降も入浴の調整を継続して行う事が重要であると考えられる。ご利用者は一日ずつ違う変化を見せる事があるので、それを見極める能力が今後も必要不可欠である。また、入浴における疑問点、改善点を委員会内で引き続き協議する事が、ご利用者の安心・安全な入浴に繋がると信じて、当委員会の仕事に邁進していく。

<次年度に向けて>

1. 引き続き、湯めぐり温泉を実施し、ご利用者に温泉気分を満喫して頂き、快適な入浴を提供する。
2. 入浴誘導表については、今後も調整や必要である為、引き続き検討していく。
3. 入浴に関する業務改善点の立案、解決を目指す。

以上

事業報告書

委員会名称	事故発生防止委員会		
報告書作成日	2023年5月6日	委員長	鈴木秀一（介護・副主任）
構成職員 スーパーバイザー	副委員長 由井崇之（介護・主任）、久保寺良次（介護） 劉会（介護） セシリアムチャ（介護） 小久保雄紀（介護）、秋山馨（看護） 高橋哲洋（介護支援・課長）		
報告期間	2022年4月1日	～	2023年3月31日 12ヶ月間
<p><目的及び課題></p> <p>事故報告書を統計し事故の傾向をデータ化しご利用者・事故の情報から事故内容の分析、個々にあった介護提供をする事を目的に活動する。</p> <p><活動日></p> <p>毎月第4金曜日</p> <p><実施内容及び結果></p> <p>1、 指針及びデータの見直し</p> <p>昨年度の指針を見直し誤字や役職の変更が無いか確認した。また、前年度まで使用していた事故のデータも見直し利用者の追加を行った。</p> <p>2、 研修開催</p> <p>「危険予知トレーニング」の研修を11月25日に開催した。</p> <p>参加人数 25名。事故発生を未然に防ぎ「ヒヤリハット」での気づき、再発防止を目的とし開催した。</p> <p>新人研修でも使用している危険予知トレーニングシートの項目をチェックした後、グループに分かれて参加者全員でどこに事故の危険が隠れているのかを考え、介助時の注意点を確認し、どの様にすれば防げるか知識を深めた。</p> <p>研修に参加された職員からは、「声かけや目介助の大切さを改めて感じた」「事故の危険は色々なところに潜んでいる」「チームとして考える事が出来た」「基本を振り返り普段のケアに生かしたい」等の感想が寄せられた。</p> <p>3、 事故報告書</p> <p>3ヶ月ごとの統計をとり改善案の話し合いを行い、注意喚起の機会を設けることとしていたが、委員の中での職員の増減もあり統計の情報が止まりがちであった。今年度4月～3月の事故件数 265件。転倒 126件、滴下ミス 3件、異食 4、その他（内出血、剥離等 128件）</p>			

<2022 年度総括>

今年度も特に内出血や剥離のスキントラブルに力を入れて取り組みを行ってきたが、原因不明の内出血や剥離の事故件数は減少には至らなかった。毎月の会議で事故件数や事故内容を報告するだけでなく、一つ一つの事故を検証し何が原因で起きた事故なのか、どの様にしたら防げた事故なのかを再度しっかり検証し対策を立てる必要があると感じた。

<次年度に向けて>

- ・新しい職員含め、事故報告書の正しい書き方を学べる研修を検討する。
- ・新人研修で行うようなヒヤリハットの研修を継続して実施する。
- ・事故報告書の検証を行い、委員内だけでなく、各フロアで事故防止に繋がる協議、検証を行う。
- ・委員が定期的に利用者の皮膚状態を把握し、内出血や皮膚剥離を早期発見し職員に啓発する。

以上

事業報告書

委員会名称	苦情対応委員会		
報告書作成日	2023年 5月 1日	委員長	雑賀 郁海（介護）
構成委員	石間雄人(介護・主任)、鈴木秀和（介護・主任）、西巻大輔（介護）、菅沼聡子（看護）		
スーパーバイザー	廣瀬和展（介護支援課長）		
活動期間	2022年4月1日	～	2023年3月31日 12ヶ月間
<p><目的及び課題> 利用者や家族、職員、地域住民からの苦情や要望に対して、速やかな対応に努める。</p> <p><活動日> 毎月第二月曜日</p> <p><実施内容及び結果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度同様、委員会職員がご意見箱の中をチェックし、投函があった場合は速やかに回覧し、次回委員会実施時にその内容について話し合った。しかし、コロナ過が影響し、ご家族が来られることが減り、投函数が減ってしまった。また、新入職員が増えたこともあり、ご意見箱の存在を知らない職員も増えてきた。ご自身で投函できるご利用者も減ってきており、投函自体は減ってしまっているものの、直接職員に苦情や要望を言われるご利用者もいることから、普段のケアの中でいかにそういった発言を汲み取れるかが課題となった。 ・メッセージの利用を促すため、フロア会議や職員会議、連絡ファイルにて周知を図った。また、設置場所が分かりづらいのではとの意見も委員会内で出たため、エレベーター内にも新しくポスターを作成し設置することになった。 ・ご利用者からの直接受けた苦情等に関しては、メッセージに記載するかケース入力しリーダーにも報告するなどし、改善できるようにした。 <p><2022年度総括></p> <ul style="list-style-type: none"> ・メッセージの投函がいまだあまり増えず、ご家族からの投函がないと増やすのは難しいと感じた。全職員に周知が行き渡ってないため、今後も知ってもらえるように対策を練っていく必要があると感じた。 ・普段のケアの中で出ているはずのご利用者からのご意見がなかなか汲み取れていない。 			

<次年度に向けて>

- ・ 今後もお願いメッセージを知って頂くために周知を図っていく。ポスターは完成し次第、エレベーター内に掲示し、効果があるかどうか観察する。また、使い方もしっかり知って頂けるようにしていく。ご自身で投函できるご利用者もかなり減ってきているため、普段からご利用者からのご意見も汲み取り、ケース入力とメッセージ記入の両方を行い、改善に努める。また、そのためにも各番街職員にもメッセージ利用のお願い、さらなる周知をしていく。

以上

事業報告書

委員会名称	非常災害対策委員会																						
報告書作成日	2023年 5月 9日	委員長	奥村 勇太（事務）																				
構成委員	川野ひとみ（看護課長）廣瀬和展（介護課長）高橋哲洋（支援課長） 古屋倫子（介護主任）石間雄人（介護主任）鈴木秀和（介護主任） 由井崇之（介護主任）石田稔（介護職） 若林聡（事務職）																						
スーパーバイザー	高橋好美施設長																						
活動期間	2022年 4月 1日	～	2023年 3月 31日 12ヶ月間																				
<p><目的及び課題></p> <p>設備全般の防災対策に関する必要な事項を定め、火災、震災、その他の災害から利用者及び職員等の生命身体を保護し、災害時の安全対策を図る。</p> <p><活動日></p> <p>原則隔月第4水曜日</p> <p><実施内容及び結果></p> <p>今年度の実施状況は以下の通り。（計2回、延べ26名参加）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実施日</th> <th>訓練想定</th> <th>内容</th> <th>参加人数 (職員)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月10日</td> <td>日中想定</td> <td>避難シミュレーション</td> <td>12名</td> </tr> <tr> <td>5月17日</td> <td></td> <td>保土ヶ谷消防署査察</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12月18日</td> <td>夜間想定</td> <td>避難シミュレーション</td> <td>14名</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>消火訓練</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・避難経路における閉鎖障害の確認を月1回実施 ・5月に行われた消防署の定期査察において、消火器の使用期限一部超過のため入替の指摘あり、即時対応のうえ全数交換完了している。 ・昨年に続き9月1日を「防災の日」、3月11日を「絆の日」とし、利用者、職員の防災意識を高める働きかけの一環として、利用者の昼食を備蓄食メニューとし、希望する職員には有料で提供した。 <p><2022年度総括></p> <p>今年度も避難訓練を定期的開催。職員の異動や退職に伴う防火責任者の見直し、避難経路等防災計画の見直しを適宜行った。</p> <p><次年度に向けて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な防災訓練の実施継続及びその他訓練、研修等の企画実施 ・災害時における各種マニュアルをアップデートする。特に、災害時における食事の配膳、提供マニュアルや、降雪時の対応（職員体制、車両取扱）について検討。 ・特別避難場所の開設訓練実施及びマニュアルの整備をする。 ・複合火災受信機の見方、操作方法について、メーカーを呼んで研修を行う。以上 				実施日	訓練想定	内容	参加人数 (職員)	4月10日	日中想定	避難シミュレーション	12名	5月17日		保土ヶ谷消防署査察		12月18日	夜間想定	避難シミュレーション	14名			消火訓練	
実施日	訓練想定	内容	参加人数 (職員)																				
4月10日	日中想定	避難シミュレーション	12名																				
5月17日		保土ヶ谷消防署査察																					
12月18日	夜間想定	避難シミュレーション	14名																				
		消火訓練																					

事業報告書

委員会名称	労働安全衛生委員会		
報告書作成日	2023年5月10日	委員長	川野ひとみ
構成委員	曾田博道医師（産業医）、高橋好美（施設長）、奥村勇太（事務課長）、 廣瀬和展（介護サービス課長）、高橋哲洋（支援サービス課長） 川野ひとみ（看護課長）		
活動期間	2022年4月1日	～	2023年3月31日 12ヶ月間
<p><目的及び課題> 職員の健康に関する基本的な事項を協議、検討する。</p> <p><活動日> 毎月第三水曜日</p> <p><実施内容及び結果></p> <p>1. 職員健康診断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全職員対象 5月～8月にかけて140名実施（保土ヶ谷中央病院健康管理課） ・夜勤者対応の健康診断は11月～12月にかけて31名実施 ・職員検診の結果は、曾田医師より指示のあった職員へは、受診や再検査の指示をし、その後の報告・結果の提出を求めた。 しかし再検査の指示を守らない職員もいたため、徹底していく。 ・健康診断の結果、年齢に関係なく肝機能障害や高脂血症の職員が多くみられた。 <p>2. 腰痛アンケートの実施と対応策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全職員の職員健診時、腰痛アンケートを同時に実施。 その結果を曾田医師に報告・確認後、通院指示のあった職員へは再検査などの通達をし、その後の確認を行った。 ・昨年度より腰痛予防対策としてラジオ体操を夜勤勤務前も実施することとなり、計3回行っている。 ・腰痛がある職員は相変わらず1/3程度はいるが、昨年度に比べると腰痛で長期に休む職員は減っている。 <p>3. インフルエンザ予防接種</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員は11月から12月にかけて曾田医師が実施。118名接種（85%）係りつけ医で接種した職員も数名あり。 ・ご利用者は11月12月の主治医来診日に順次実施 133名接種（95%） 			

4、ストレスチェック実施

- ・ストレスチェックは昨年同様外部業者へ委託した。
- ・1月に全職員対象に、ストレス度をはかる質問票を配布し、各自記入後回収し、業者へ提出後、判定結果が届いた後、結果を産業医が確認
- ・結果を職員へ通知（138名実施）
- ・高ストレス者12名（7.2%）には別途通知し、希望者には産業医との面接を設定した。面接希望者は1名。
- ・上記結果を労働基準局に報告（3月）

5、新型コロナウイルス対策

- ・産業医の指示をうけながら、引き続き予防対策を実施
(詳細は感染症予防対策委員会報告書参照)
- ・コロナワクチン4回目5回目接種
- ・コロナ陽性者発症の対応について協議
(詳細は看護サービス課事業報告参照)

6、職員の健康状況について

- ・委員会で職員の健康状態の報告を行い、必要に応じて曾田医師より指示を受けた。
- ・外傷や療養で入院治療が長期になった職員もおり、なお一層の健康管理が必要と感じた。
- ・通勤途中、勤務中の外傷などにより、3名の職員が労災の対象となった。

7、研修の実施

- ・健康診断の結果、生活習慣病を指摘された職員が多く、それぞれが自覚し、予防に取り組めるように研修を企画した。
- ・3月28日「生活習慣病と肥満」“医師が教える効果的なダイエット”というテーマで湘南泉病院 初谷医師に講師を依頼し、研修を実施した。
(百合ヶ丘とリモート研修)
- ・参加者は36名
- ・最新のダイエットの知識やスマートフォンを使用した自己チェックなど興味深く、ダイエットの動機づけになった。

<2022年度総括>

- ・職員の健康管理の面では、年1回の健康診断の結果で、再検査や要治療、特に問題があった職員は、曾田医師と面談をしていただくなど、その後のフォローを行ったが、再検査していない職員もおり、さらなる働きかけが必要。
- ・年齢が高い職員は、何らかの疾患を抱えており、治療中の職員や新たに治療を開始した職員もいた。
- ・年齢に関係なく何らかの異常を感じた時に、相談できる環境づくりと治療の継続・

異常時の早期対応を職員へ働きかけていく必要があると感じた。

- ・腰痛予防としてラジオ体操を3回に増やし定着している。
昨年度に比べ腰痛で長期に休む職員は減っているが、今後も力を入れていかなくてはならない。
- ・ストレスチェックで高ストレスと診断された職員が12名。今後も注意していくと共に、対人援助サービスという仕事柄、ストレスを抱えることも多いと思われるため、働きやすい環境づくりに努めていく必要がある。

<次年度に向けて>

- 1、職員健診の結果をふまえ、医師との面談を来年度も依頼していく
- 2、腰痛アンケートの実施・集計。腰痛予防
- 3、コロナワクチン6回目接種・インフルエンザ予防接種
- 4、ストレスチェックの実施
- 5、年2回の研修の企画
- 6、健康相談できる環境づくり

以上

事業報告書

クラブ名称	組紐教室																																																			
報告書作成日	2023年5月5日	主担当	大元 和恵（事務）																																																	
担当職員	薄倉 由美子（介護）、松本 綾（介護）、池田 さとみ（介護） 谷川 アイリン（介護）、大元 和恵（事務）																																																			
報告期間	2022年4月1日	～	2023年3月31日 12ヶ月間																																																	
<p><講師> 吉祥工芸学院 加藤真江先生</p> <p><定例活動日> 毎月第1・3月曜日 14時～15時半</p> <p><活動実績（日時：参加人数：内容等）></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>実施月</th> <th>日にち</th> <th>参加人数</th> <th>実施月</th> <th>日にち</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">4月</td> <td>4日</td> <td>15名</td> <td rowspan="2">10月</td> <td>17日</td> <td>13名</td> </tr> <tr> <td>18日</td> <td>14名</td> <td rowspan="2">11月</td> <td>21日</td> <td>12名</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">5月</td> <td>2日</td> <td>12名</td> <td rowspan="2">12月</td> <td>中止</td> <td></td> </tr> <tr> <td>16日</td> <td>14名</td> <td>1月</td> <td>23日</td> <td>15名</td> </tr> <tr> <td>6月</td> <td>20日</td> <td>15名</td> <td>2月</td> <td>20日</td> <td>13名</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td>中止</td> <td></td> <td rowspan="2">3月</td> <td rowspan="2">27日</td> <td rowspan="2">12名</td> </tr> <tr> <td>8月</td> <td>22日</td> <td>14名</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>中止</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>在籍 男性1名 女性15名 平均年齢 84,25歳 参加人数延べ 149名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「すずな」「北山」「老松」「麦の穂」組を1時間集中され、時々外を見て休憩されたりしながら組まれた後、先生を囲んでお茶会を行う。 ・今年の組初め式は、1月23日に、昨年同様ソーシャルディスタンスをとりながら厳かに執り行い、ご自身で組まれた組紐で作成したストラップをプレゼントした。皆様大変喜ばれて、今年も一年頑張ろうという意気込みが表情や会話から伺えた。 <p><次年度に向けて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度もほとんどの方が活動を継続された。先生のご都合により、開催できない月もありましたが、来年度も皆様の体調等に配慮しながら、楽しく参加していただけるよう取り組んでいきたい。 <p>出来る限り期間を空けずに開催できるように努めていきたい。</p>				実施月	日にち	参加人数	実施月	日にち	参加人数	4月	4日	15名	10月	17日	13名	18日	14名	11月	21日	12名	5月	2日	12名	12月	中止		16日	14名	1月	23日	15名	6月	20日	15名	2月	20日	13名	7月	中止		3月	27日	12名	8月	22日	14名	9月	中止				
実施月	日にち	参加人数	実施月	日にち	参加人数																																															
4月	4日	15名	10月	17日	13名																																															
	18日	14名		11月	21日	12名																																														
5月	2日	12名	12月		中止																																															
	16日	14名		1月	23日	15名																																														
6月	20日	15名	2月	20日	13名																																															
7月	中止		3月	27日	12名																																															
8月	22日	14名																																																		
9月	中止																																																			

事業報告書

クラブ名称	民謡クラブ																																																														
報告書作成日	2023年5月10日	主担当	小川 美華																																																												
担当職員	奥村勇太（事務・課長）・高橋哲洋（支援・課長）・廣瀬和展（介護・課長）・鈴木秀一（介護・副主任）・滝澤素子（介護・副主任）・仲程優子（介護・副主任）																																																														
報告期間	2021年4月1日	～	2022年3月31日 12ヶ月間																																																												
<p><講師> 秀美会 会主 大塚千代美先生</p> <p><定例活動日> 毎月第一・第三金曜日 14:00～15:00</p> <p><活動実績（日時：参加人数：内容等）> 利用者の方からは、民謡クラブ開催日には「今日は民謡クラブがあるから楽しみ」「今日はこの曲を唄いたいわ」との利用者からのコメントや、民謡クラブの開催に合わせショートステイをご利用される方や、入浴日を変える方がいる等、大塚先生のユーモアを交えた本格的な指導と職員による生演奏が、利用者の世代にマッチングしたクラブ活動となっている。</p> <p>助かる 今年度の活動実績は以下の通り。</p>																																																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>実施月</th> <th>日付</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">4月</td> <td>1日</td> <td>45名</td> </tr> <tr> <td>15日</td> <td>43名</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">5月</td> <td>6日</td> <td>38名</td> </tr> <tr> <td>20日</td> <td>36名</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">6月</td> <td>3日</td> <td>39名</td> </tr> <tr> <td>17日</td> <td>40名</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">7月</td> <td>1日</td> <td>40名</td> </tr> <tr> <td>15日</td> <td>41名</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">8月</td> <td>5日</td> <td>43名</td> </tr> <tr> <td>19日</td> <td>40名</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		実施月	日付	参加人数	4月	1日	45名	15日	43名	5月	6日	38名	20日	36名	6月	3日	39名	17日	40名	7月	1日	40名	15日	41名	8月	5日	43名	19日	40名	9月			<table border="1"> <thead> <tr> <th>実施月</th> <th>日付</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10月</td> <td>21日</td> <td>40名</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">11月</td> <td>4日</td> <td>37名</td> </tr> <tr> <td>18日</td> <td>36名</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">12月</td> <td>2日</td> <td>37名</td> </tr> <tr> <td>16日</td> <td>38名</td> </tr> <tr> <td>1月</td> <td>20日</td> <td>43名</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">2月</td> <td>3日</td> <td>38名</td> </tr> <tr> <td>17日</td> <td>40名</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">3月</td> <td>3日</td> <td>48名</td> </tr> <tr> <td>17日</td> <td>45名</td> </tr> </tbody> </table>		実施月	日付	参加人数	10月	21日	40名	11月	4日	37名	18日	36名	12月	2日	37名	16日	38名	1月	20日	43名	2月	3日	38名	17日	40名	3月	3日	48名	17日	45名
実施月	日付	参加人数																																																													
4月	1日	45名																																																													
	15日	43名																																																													
5月	6日	38名																																																													
	20日	36名																																																													
6月	3日	39名																																																													
	17日	40名																																																													
7月	1日	40名																																																													
	15日	41名																																																													
8月	5日	43名																																																													
	19日	40名																																																													
9月																																																															
実施月	日付	参加人数																																																													
10月	21日	40名																																																													
11月	4日	37名																																																													
	18日	36名																																																													
12月	2日	37名																																																													
	16日	38名																																																													
1月	20日	43名																																																													
2月	3日	38名																																																													
	17日	40名																																																													
3月	3日	48名																																																													
	17日	45名																																																													
<p>・計 20回、延 806名が参加した。</p>																																																															

<2022 年度総括>

- ・1 番街は主に民謡クラブ担当職員で対応し、利用者の誘導、クラブ活動日誌の記入、看・介記録への記録を担当職員で行った。
- ・大塚先生、利用者、職員で民謡を唄い、伴奏は、尺八には飯田先生（ボランティア）、三味線は職員、太鼓については今年度も利用者の方に行って頂き、職員、利用者が一体となり民謡クラブを行う事が出来た。
- ・民謡を唄い、体操を行う事で精神活動低下を予防し、楽しみを持って頂く事が出来た。
- ・以前はサマーフェスタで盆踊りをしていたが、ここ数年新型コロナウイルス感染拡大予防の為に中止をしていた。しかし、今年度はピアガーデンで盆踊りを行うこととなり 7 月頃からクラブで炭坑節や東京音頭を演奏し、ピアガーデン当日には大塚先生の生歌、三味線の生演奏で盆踊りを行うことが出来、普段とは違う表情や笑顔、踊りなどを見る事が出来た。
- ・今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、数日クラブ活動をお休みになる事があり、開催日が少なくなってしまった。
- ・利用者の誘導は主にクラブ担当者で行っているが、離床から誘導となると時間が掛かる為、朝礼時等で事前に番街の職員へ伝達しておき、放送が鳴ったら離床し EV 前まで誘導して頂くとよりスムーズに誘導が行えると思う。施設長、看護課長や事務課、支援課、新人職員が誘導や会場の担当などを協力して行って頂いたおかげで事故等などは無く 1 年間安全に行うことが出来た。
- ・今まで参加利用者はメモに書き、それからフロアへ記録をし日誌を書いていたが、ケアパレットが導入されたことにより直に記録が出来るのはとても助かった。
- ・歌詞カードも今までは紙ベースの物を使用し、曲ごとにホワイトボードへ貼っていたが、今年度からスクリーンを使用し、プロジェクターで歌詞を映し出すことによって歌詞を張り替える時間の削減が出来、次の曲目への移動がスムーズに行えた。

<次年度に向けて>

- ・1 番街の対応やクラブ日誌の記載は、主に民謡クラブの担当職員が行っているが、民謡クラブの担当職員でも番街の職員が業務の関係で 1 番街の対応を行う事が出来なかった為、来年度は番街の職員に 1 名でも参加をしてもらえる様に勤務調整を行い、普段見る事の出来ない利用者の表情を見て頂く様にして行きたい。また、クラブ活動日誌については、クラブ担当者の中で 1 年間の担当割り振りをし記録漏れを防ぎ、また負担がかからない様にしていきたい。
- ・会場での席の配置について、昨年度に引き続きアーチ型に配置し、先生が参加をされた利用者の間を通れるようにしているが参加人数が増えており会場がいっぱいになってしまうこともある為、今後は配置の調整も必要。又、利用者の席の誘導についても、利用者の状況等を考えた席の誘導を行っており、今後も、誰が行ってもスムーズに利用者の方の誘導や会場の設営が出来る様に行っていく。
- ・今年度は、新型コロナウイルスの影響で、クラブの開催日数が少なくなってしまう事があったが無事に開催をする事が出来ました。利用者さんの楽しみの一つでもある為、来年度も施設としてしっかりと感染予防に務め、安全にクラブ活動を開催出来る様に行きたい。

以上

事業報告書

クラブ名称	サロン悠々常盤台教室		
報告書作成日	2023年5月7日	主担当	日高 美香（事務）
担当職員	奥村勇太（事務課長）、由井崇之（介護・主任）、城田宏子（介護） ナランシーマニダ（介護）、後藤グレンダ（介護）		
報告期間	2022年4月1日	～	2023年3月31日 12ヶ月間

<講師>

齋藤 清子先生

<定例活動日>

月1回 木曜日（第三木曜日を基本） 14:00 ～ 15:00

<活動実績（日時：参加人数：内容等）>

実施日	参加人数	題 材
4月21日	12名	野菜（ナス、ししとう、とまと）
5月19日	11名	野菜（ピーマン、きゅうり）
6月19日	12名	ながくつ、かさ、あじさい かたつむり
7月	-名	中止
8月	-名	中止
9月	-名	中止
10月20日	12名	果物（かき、りんご）
11月18日	-名	中止
12月23日	12名	クリスマス飾り
1月21日	一名	中止
2月18日	一名	中止
3月9日	7名	春テーマ

- ・計6回、66名の方が参加。
- ・今年度は、コロナ化の状況で前年度と比べ6回の教室しか開催できませんでした。
- ・ご自分で最後まで仕上げる事が出来なくなっているため、題材も工夫し書きやすい物にしました。
- ・完成した絵手紙は、カラーコピーを撮り、コピーした物を額縁に入れて新棟ネオマルシェに展示する事にしました。

<次年度に向けて>

- ・絵を書くこと自体がむずかしくなっており、以前参加された方も参加が難しくなっています。
 - ・先生からも皆さん色を塗ることも難しくなっているため3月開催時にはしばらくお休みの方向でとのお話でした。
- 以上

事業報告書

クラブ名称	書の会																																																										
報告書作成日	2023年4月1日	主担当	川野 ひとみ																																																								
担当職員	清水亮兵（介護）、橋本真由紀（介護）、沼澤香（支援課）、川野ひとみ（看護課長）																																																										
報告期間	2021年4月1日	～	2022年3月31日 12ヶ月間																																																								
<p><講師></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高木 千賀子先生 <p><定例活動日></p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月第1、3木曜日 14:00 ～ 15:00 <p><活動実績（日時：参加人数：内容等）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の活動実績は以下の通りとなった。 																																																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>実施月</th> <th>日付</th> <th>参加人数</th> <th>実施月</th> <th>日付</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">4月</td> <td>13日</td> <td>21人</td> <td rowspan="2">10月</td> <td>13日</td> <td>20人</td> </tr> <tr> <td>27日</td> <td>22人</td> <td>27日</td> <td>16人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">5月</td> <td>11日</td> <td>19人</td> <td>11月</td> <td>3日</td> <td>23人</td> </tr> <tr> <td>21日</td> <td>19人</td> <td rowspan="2">12月</td> <td>7日</td> <td>19人</td> </tr> <tr> <td>6月</td> <td>22日</td> <td>21人</td> <td>21日</td> <td>20人</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td>6日</td> <td>21人</td> <td rowspan="2">1月</td> <td>5日</td> <td>20人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">8月</td> <td>10日</td> <td>23人</td> <td>19日</td> <td>22人</td> </tr> <tr> <td>24日</td> <td>20人</td> <td rowspan="2">2月</td> <td>2日</td> <td>20人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">9月</td> <td rowspan="2">22日</td> <td rowspan="2">21人</td> <td rowspan="2">3月</td> <td>2日</td> <td>20人</td> </tr> <tr> <td>16日</td> <td>24人</td> </tr> </tbody> </table>				実施月	日付	参加人数	実施月	日付	参加人数	4月	13日	21人	10月	13日	20人	27日	22人	27日	16人	5月	11日	19人	11月	3日	23人	21日	19人	12月	7日	19人	6月	22日	21人	21日	20人	7月	6日	21人	1月	5日	20人	8月	10日	23人	19日	22人	24日	20人	2月	2日	20人	9月	22日	21人	3月	2日	20人	16日	24人
実施月	日付	参加人数	実施月	日付	参加人数																																																						
4月	13日	21人	10月	13日	20人																																																						
	27日	22人		27日	16人																																																						
5月	11日	19人	11月	3日	23人																																																						
	21日	19人	12月	7日	19人																																																						
6月	22日	21人		21日	20人																																																						
7月	6日	21人	1月	5日	20人																																																						
8月	10日	23人		19日	22人																																																						
	24日	20人	2月	2日	20人																																																						
9月	22日	21人		3月	2日	20人																																																					
			16日		24人																																																						
<ul style="list-style-type: none"> ・計20回 延べ411名参加。昨年度 20回 350名) ・会場設営の時、文鎮・筆おき・硯・筆等の準備は職員が全て準備するのではなく、参加ご利用者主体になるように行える箇所は行ってもらう形でやっているが、準備からできるご利用者が少なくなっている現状もある。後片付けも同様に、できるところは今後行ってもらうようにする。 ・書き上げた書の中から先生が1枚選び“朱”でコメントされた書を所定の掲示板に展示している。ご利用者は何度も観にこられ自作品、他作品にも熱心に鑑賞されて 																																																											

いる姿がみられている。

- ・書の会参加希望の方の人数が増えてきており、テーブルを増やして対応することもあった。集中できる環境づくりに努めていく必要がある。

<作品展示>…11月実施

昨年度書かれた作品を高木先生に選んで頂き、裏打ちしたものを額に飾りマルシェとネオマルシェへ展示している。

11月3日(木)利用者と一緒に展示作品を観て回りその後、5番街ネオマルシェにてお茶・お菓子を召し上がってもらった。

・書の会の流れ

13:15～ 会場設営・お手本準備

13:50～ 誘導開始・高木先生来所

14:00～ 書の会開会

(開催中 半紙・お手本交換・墨汁の補充・保安を行う)

15:00～ 書の会閉会・番街へ誘導・片づけ

16:00～ 先生の添削・展示 前回掲示作品のファイリング・本人へ返却
クラブ活動日誌の記載

<次年度へ向けて>

- ・参加費を毎月500円徴収する。(1回250円)
- ・出納簿の確認を行う
- ・消耗品備品(筆・半紙・墨汁)の購入・管理を行う。
- ・お手本ファイルの整理を行う。
- ・誘導・参加ケース記録に関しては引き続き番街職員の方へ協力して行っていく。
- ・ショートステイのご利用者様で参加希望の方にはお声がけしていく。

以上

事業報告書

クラブ名称	レクリエーションリハビリ																																																																					
報告書作成日	2023年5月1日	主担当	川野 ひとみ																																																																			
担当職員	遠藤歩（介護）、セシリア・ムチャ（介護）、フェン（介護）、 佐藤久美（介護）、高橋史比古（介護）、中島由盛（機能訓練指導員）、 川野ひとみ（看護課長） SV 高橋施設長、																																																																					
報告期間	2021年4月1日	～	2022年3月31日 12ヶ月間																																																																			
<p><定例活動日></p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月第1木曜日 16:30 ～ 会議 ・毎月第4木曜日または金曜日 14:00～15:00 レクリエーションリハビリ <p><活動実績（日時：参加人数：内容等）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の活動実績は以下の通りとなった。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>実施月</th> <th>日付</th> <th>参加人数</th> <th>内容</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月</td> <td>7日</td> <td>24人</td> <td>準備体操 脳トレ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6月</td> <td>30日</td> <td>18人</td> <td>七夕飾り</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">8月</td> <td>12日</td> <td>21人</td> <td>盆踊り練習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15日</td> <td>25人</td> <td>〃</td> <td></td> </tr> <tr> <td>16日</td> <td>20人</td> <td>〃</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>29日</td> <td>25人</td> <td>風船バレー</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>24日</td> <td>20人</td> <td>風船バレー</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>25日</td> <td>25人</td> <td>風船バレー</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">12月</td> <td>12日</td> <td>18人</td> <td>クリスマス飾り</td> <td>250円</td> </tr> <tr> <td>27日</td> <td>13人</td> <td>お正月飾り</td> <td>250円</td> </tr> <tr> <td>1月</td> <td>13日</td> <td>25人</td> <td>体操（タオル体操など） 脳トレ（九九）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>10日</td> <td>24人</td> <td>ひな飾り</td> <td>150円</td> </tr> <tr> <td>3月</td> <td>23日</td> <td></td> <td>外部レクリハ研修</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・計12回 延べ258名参加 				実施月	日付	参加人数	内容	その他	4月	7日	24人	準備体操 脳トレ		6月	30日	18人	七夕飾り		8月	12日	21人	盆踊り練習		15日	25人	〃		16日	20人	〃		9月	29日	25人	風船バレー		10月	24日	20人	風船バレー		11月	25日	25人	風船バレー		12月	12日	18人	クリスマス飾り	250円	27日	13人	お正月飾り	250円	1月	13日	25人	体操（タオル体操など） 脳トレ（九九）		2月	10日	24人	ひな飾り	150円	3月	23日		外部レクリハ研修	
実施月	日付	参加人数	内容	その他																																																																		
4月	7日	24人	準備体操 脳トレ																																																																			
6月	30日	18人	七夕飾り																																																																			
8月	12日	21人	盆踊り練習																																																																			
	15日	25人	〃																																																																			
	16日	20人	〃																																																																			
9月	29日	25人	風船バレー																																																																			
10月	24日	20人	風船バレー																																																																			
11月	25日	25人	風船バレー																																																																			
12月	12日	18人	クリスマス飾り	250円																																																																		
	27日	13人	お正月飾り	250円																																																																		
1月	13日	25人	体操（タオル体操など） 脳トレ（九九）																																																																			
2月	10日	24人	ひな飾り	150円																																																																		
3月	23日		外部レクリハ研修																																																																			

<2022 年度総括>

- ・今年度よりレクリハ担当職員が決まり、毎月第一木曜日に会議を開き、当月のレクリハの日程と内容について検討した。
- ・今年度は風船バレーを主に実施した。
普段ラジオ体操に降りてこられないが、ある程度理解ができ、上肢を動かせる利用者 20 名程度を対象とした。10 人程度の円を 2 つ作り職員も分かれて対応した。最初は手が動かなかったご利用者が風船に触れるようになったり、笑顔が見られたり楽しそうに参加されていた。最初は担当職員も運営に不慣れであったが、回数を重ねるごとにスムーズにできるようになってきている。
しかし担当職員だけでは対応が難しく、番街職員の応援が必要。
- ・季節ごとの節句に合わせて飾りづくりを行った。
理解しながら、作業できるご利用者 15 名程度を対象とした。
作業時間は 1 時間としたが、出来上がるまでに時間を要することもあった。
完成した作品を楽しそうにお互い見せ合ったり、お部屋に飾ったりされていた。
雛飾りはネオマルシェに展示した。
しかし、実際に作るまでの準備の段階で、何を作るか、何を準備するか、どのように段取りをすればご利用者ができるか、人員の配置など毎回課題が残る結果となった。
- ・試行錯誤しながら、大部分を施設長にアドバイスをもらうことになったが、1 年間定期的に実施できたことはよかった。

・レクリハの流れ

- 13 : 00～ 会場設営
- 13 : 30～ 担当職員打ち合わせ
- 13 : 45～ 誘導開始
- 14 : 00～ レクリハ開始
- 15 : 00～ 後片付け・反省会

<次年度へ向けて>

- ・定期的開催できるようにする
- ・風船バレーはご利用者が忘れない程度の間隔で行っていく
- ・レクリハの内容によって参加人数を調整する。
特に作業療法は、職員が対応できる人数 15 名程度にする。
作業療法は実費を徴収

以 上

事業報告書

クラブ名称	カフェマルシェ		
報告書作成日	2023年4月24日	主担当	柳沢 愛美 (栄養・栄養士)
担当職員	今井こずえ (栄養・主任)・日高美香(事務)・柴田圭子(介護)		
報告期間	2022年4月1日	～	2023年3月31日 12ヶ月間
<p><ボランティア></p> <p>※月1回お琴マルシェ：米田いつ子様</p> <p><定例活動日></p> <p>毎週火曜日 14：00～15：30</p> <p><活動実績（日時：参加人数：内容等）></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. カフェマルシェ（喫茶店）の営業を通して、利用者や地域の方々にとって憩いの場を提供することが出来た。 2. 利用者の家族によりお琴の演奏会を月に一回催した。歌詞はプロジェクターを用いて大きく映し出し、琴の演奏を聴き、一緒に声を出して歌うことにより、普段ご利用頂いている時とは一味違った雰囲気を提供することが出来た。定例の行事として楽しんで頂いている。昨年度に引き続き、機材を用いて全館放送を行い、全利用者様に楽しんでいただいている。 3. 担当職員、ボランティアの方々の力添えの結果、毎回の無事故の運営、開店と多数の集客を実現している。 4. 暖かくなってきた春には窓を開放してオープンテラスの形で行い、また、装飾面でも、季節に合わせてランチョンマットやお花などテーブルの飾りつけなどを工夫し演出した。 5. メニューは既製品や手作りのものを織り交ぜながら、担当者皆で相談して決定した。内容は、なるべく普段のおやつで出ないようなものを召し上がっていただけるよう心がけてきた。 6. 今年度も、コロナウイルスの影響で実施できない日もあったが、密の空間にならないよう、また少ない人数の職員でも対応できるよう、席の間隔をとる、一度に大勢の方が集まらないよう工夫をした。 7. 昨年度に新棟がオープンしたことにより、新棟のご利用者様を中心とし、また新規入所の方を中心にご参加していただけた。 8. カフェで流す音楽も支援課のご協力のもと、毎週異なった音楽を BGM として流すことができた。 9. 今年度の活動実績は以下の通り。 			

実施日	参加人数	メニュー等
4月12日	40名	アイスクリーム他
4月19日	32名	焼き菓子
4月26日	33名	バターケーキ・ソフトクリーム
5月3日	37名	柏餅風練り切り
5月10日	26名	お琴マルシェ実施 焼き菓子（ハーバー）
5月17日	24名	いちご（練乳かけ）
5月31日	27名	ショートケーキ
6月7日	30名	川内晩柑ゼリー
6月14日	31名	お琴マルシェ実施 水ようかん
6月21日	28名	あじさいヨーグルトゼリー
7月5日	33名	お琴マルシェ実施 七夕ようかん
7月19日	30名	トマトのワイン煮
8月9日	38名	お琴マルシェ実施 スイカ（常盤台農園）
8月23日	37名	ロールケーキフルーツ添え
8月30日	33名	ミニマフィン
9月6日	26名	梨・巨峰
9月13日	28名	お琴マルシェ実施 カステラ
9月23日	26名	AMおはぎ作り 臨時開店 おはぎ(添え/漬物)
9月27日	33名	芋ようかん
10月11日	29名	お琴マルシェ実施 チーズケーキ・チョコレートケーキ
11月2日	29名	どら焼き
11月29日	32名	パンプキンケーキ
12月12日	26名	お琴マルシェ実施 チーズケーキフルーツ添え
1月10日	27名	吉兆庵和菓子おせんべい添え
1月17日	26名	バナナケーキ
1月31日	31名	おしるこ
2月7日	28名	お琴マルシェ実施 いちご練乳かけ

2月21日	28名	ドーナツ
実施日	参加人数	メニュー等
2月28日	22名	お饅頭
3月7日	28名	お琴マルシェ実施 あまおうケーキ
3月14日	24名	桜まんじゅう
3月28日	29名	りんごコンポート

計 32 回、延べ 951 名が参加された。

ご利用者の 1 回の来店者数：平均 29.7 名

<次年度に向けて>

1. 利用される方々に喜んでいただくため、メニュー内容などその都度見直し、新たなサービス提供を心掛ける。特に生フルーツなどなかなか普段のお食事では出ることが少ないものが喜ばれるため、提供回数を多くしていきたい。また、ソフトクリームが引き続き好評だったので、来年度も提供していきたい。
2. 利用者が出入りしやすいよう、席の配置など、危険のない広々とした空間づくりを心がける。また、来ていただいたご利用者がのんびり過ごせるような空間づくりに努める。
3. 今年度も新棟のご利用者様を中心に参加していただいたが、来店者数が 30 名平均のため、新規入所のご利用者様を中心により多くのリピーターの方が増えていただけるよう努めたい。
4. 最初 30 分に来店者が集中されることが多い。たくさん来られても、慌てず、来られた方から順番に注文をとっていくようにしたい。また、見守りも強化し、安全においしく召し上がっていただけるように気配り・目配りを忘れない。
5. 新人職員さんがたくさん利用者を見守りや注文取りをしてもらえてとても助かった。常に、介護職員が 2 名程度開催時間の間に見守り等してもらえたら運営しやすいと思った。
6. 開催日の当日には利用者の方々に予め呼びかけを行い、多くの方に参加していただけるよう努める。
7. 月 1 回のお琴マルシェは毎回楽しみにされている方も多く、参加者が多いため、席の配置など工夫が必要。
8. 盛り付け量が多くなり過ぎないように気を付ける。
9. クリームソーダなどのドリンクが人気で、大きめのグラスが不足してきたので、予算の中で新調したい。

以上

事業報告書

クラブ名称	ビストロマルシェ		
報告書作成日	2023年4月26日	主担当	今井 こそえ(栄養・主任)
担当職員	柳沢愛美(栄養・栄養士)・相談支援係・事務課		
スーパーバイザー	高橋好美(施設長・SV)		
報告期間	2022年4月1日	～	2023年3月31日 12ヶ月間

<ボランティア>

大山昭典様・北部自治会（橋本会長・石倉様・佐々木様・勝又様）

<定例活動日>

毎月第四水曜日 16:00～17:30

<活動実績（日時：参加人数：内容等）>

- 1、下ごしらは、11時頃から実施。
- 2、常盤台農園の旬の野菜を中心に、美味しいおつまみとお酒・ジュースを提供し、後半はカラオケをご利用者に楽しんでいただいている。
- 3、12月～北部自治会のボランティアの方々も参加し、ご利用者のオーダーを取ったり、カラオケを一緒に行い、ご利用者様と共に楽しんでいただいている。



今年度の活動実績は以下の通り。

実施日	参加人数	メニュー等
4月14日	36名	筍ご飯とすまし汁・筍の煮物
5月25日	35名	カツオのたたき・大根と厚揚げの煮物・スナップエンドウとトマトのサラダ
6月23日	33名	肉じゃが・やっこサラダ
7月		開催なし
8月		開催なし
9月		開催なし
10月		開催なし
11月		開催なし
12月21日	34名	お寿司3種盛り・鶏と大根の煮物・白菜のお漬物
1月25日	31名	おでん・切り干し大根と白菜漬物盛り合わせ
2月22日	34名	豚肉のスタミナ焼き・ほうれん草と卵の炒め物・ブロッコリーサラダ
3月22日	34名	やきうどん・菜の花お浸し・りんごヨーグルト

計7回、延 237名が参加された。 1回来店者数：平均 34名

<次年度に向けて>

- 1、実施前に飲み物の在庫確認をおこなう。お酒を希望されるご利用者、特に日本酒の注文多数あるため、過不足ないようにする。また、ご利用者のボトルキープもあり、管理をしっかりと行う。
- 2、様々な食形態の方が来店されるため、ご利用者が安全に美味しく召し上がれるよう見守りをしっかりと行う。
- 3、ご利用者がゆっくり楽しんでいただけるよう、会場の雰囲気作りに気を付ける。
- 4、新棟のご利用者様の来店数が多いため、席も後から増やせるような会場作りに配慮したい。
- 5、カラオケの時間も、ボランティアの皆さんや職員が協力し、歌うご利用者・聞いているご利用者それぞれが楽しめるようにしていきたい。
- 6、普段の食事ではなかなか召し上がれないもの、季節が感じられる食材を使った料理を提供するのはもちろん、盛りつけも美しく、見た目から楽しめるよう心掛ける。
- 7、今年度もコロナウイルスの影響等により、定期での開催ができなかった。来年度はご利用者様も楽しみにされているため、月1回程度は開催できるとよい。

以上

事業報告書

部署名称	介護サービス課 (2番街)		
報告書作成日	2023年 5月 9日	責任者	石間 雄人
所属職員	2番街職員		
報告期間	2022年4月1日	～	2023年3月31日 12ヶ月間
<p><主な業務内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者の日常生活のサポート ・利用者担当による個別介護計画書の作成と計画に沿ったケアの実施 ・居室の環境整備 ・各種研修への参加 ・月に一度のフロア会議の実施 <p><年度当初の課題></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 個別介護計画書の作成と更新 ② 計画に沿ったケアの実施 (ケアの統一) ③ 居室内の環境整備 (整理・整頓) ④ 情報の共有 <p><具体的取り組みと成果></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 個別介護計画書作成と更新 今年度、個別介護計画書作成については一定の職員を除き出来ていない現状があった。外国籍の職員も多く、周知や理解を深めることが困難だったことやパソコン操作についても不慣れなこと、また職員の移動や退職に伴い利用者担当が何度となく変更したことが要因に上げられる。まずは個別介護計画書の存在や意味を周知徹底、作成方法については熟知した職員が付いて教える、記入方法についてはパソコンに不慣れな職員には紙ベースで印刷したフォーマットを用意し記入することで理解を深めるための取り組みを開始した。 ② 計画に沿ったケアの実施 (ケアの統一) 連絡ノートや申し送りなどご利用者の現状に合った介助方法を周知していても、忘れてたり個人的な理由から実施が徹底されていない事もあった。根気強く伝え続けることやなぜその方法が必要なのか？そのケアを怠るとどの様な弊害があるのか根拠を伝え理解してもらう工夫が必要だった。 			

③ 居室内の環境整備（整理・整頓）

居室内の環境整備（整理・整頓）は利用者担当の仕事であると伝えているが、ご家族の訪室がない現在では以前に比べ気に掛けなくなっており、ご利用者によっては片付けられないほど多くの荷物がある居室もある為、整理整頓が疎かな傾向がみられている。利用者担当に限らず職員1人ひとりが意識するようにならないければ改善されない問題でもある。担当ではないから関係がないと思うことや散らかっていても何も感じないことに危機感を持たなければならず、これはケアの本質に通じることであることを伝えていきたい。

④ 報連相と情報の共有

- ・事後報告など遅くなるが多かった。これに関しても個々がもっと危機感を持たなければならない。
- ・ご利用者様の状況は常に変化しており、対応が遅くなる事で事故に繋がる事や適切なケアを提供できないこともある為、迅速に行えるようリーダーを中心に伝えていきたい。
- ・情報の共有については連絡ノートだけで伝えるのではなく一人一人に口頭で伝えることで理解できているか、疑問点などがその場で確認、解決できるため有効であると考えている。

<2022年度統括>

- ・職員のコロナ感染や体調不良、退職または個人的な理由での長期休暇などがあり厳しい状況での一年であった。
- ・職員1人ひとりが目の前の業務に追われバラバラに動いていた。リーダー達が方向性を導き出せなかった事が反省点である。
- ・チームの課題を見つけ、その為に個々がどのようにしなければならないのかを明確にし、それに対しての目標を立てフィードバックをするという一連の流れを行うことが出来なかった。
- ・全体を把握し着地点を見つけ「今はこうしましょう」と的確に指示を行うこと、その為に報連相や情報の共有をもっと迅速に行うことが必要であった。
- ・来期は個々のスキルの向上のために目標の設定、フィードバックをしっかりと行っていきたい。

<次年度に向けて>

- ・個別介護計画書の作成、更新
- ・計画に沿ったケアの実施（ケアの統一）
- ・利用者担当の役割
- ・報連相の徹底と情報の共有
- ・職員のスキルアップ、リーダーの育成

以上

事業報告書

部署名称	介護サービス課 3番街		
報告書作成日	2023年 5月 7日	責任者	鈴木 秀和
所属職員	3番街職員		
報告期間	2022年4月1日	～	2023年3月31日 12ヶ月間
<p><主な業務内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の日常生活のサポート ・利用者担当による個別介護計画書の作成 ・居室の環境整備 ・フロア会議の実施 ・ケアパレットでの記録 <p><年度当初の課題></p> <ol style="list-style-type: none"> 1、個別援助計画書の沿ったケアの提供。 2、職員間の報告・連絡・相談の徹底。 3、新人職員、外国籍の職員の指導 4、ケアパレットでの記録の質の向上 <p><具体的取り組みと成果></p> <ol style="list-style-type: none"> 1、個別援助計画書に沿ったケアの提供 個別援助計画書に基づきケアの提供を行わなければならないが更新ができていない利用者が数名いたことにより自己流で行っているケアがあった。連絡ファイルを使用し改善している。更新に関しても滞っており提出している職員もいれば全く提出していない職員もいる。特に外国籍の職員ができておらずやり方がわからないとの事。リーダーより目的と作成方法の指導をしているが理解度は不十分だと思われる。2023年度に継続して指導を行う。 2、職員間の報告・連絡・相談の徹底 職員間の報告・連絡・相談については特記事項があったら報告をしてくれるようになったが時折自己判断で対応することがあり相談がないことがあった。こちらも連絡ファイルを利用し改善している。 			

3, 新人職員、外国籍職員の指導

2022 年度も新人職員、外国籍の職員が入職しており指導している。チューター制度のもと指導を行い常盤台でのやり方を指導している。外国籍職員は日本語の上達が見受けられ日本語での申し送りも問題ない。2023 年度は新人職員等に指導をしてもらう立場となるためチューター業務もできるように指導を行う。

4, ケアパレットでの記録の質の向上

2022 年度からケアパレットでの記録が開始された。研修をおこなっていたとはいえ開始直後とまどいがあった。慣れていないから紙ベースではできていた詳細な記録ができないことが見受けられていた。ほのぼのの確認を行い出来ていない個所を指導し修正している。次第に大分記録に慣れてきており詳細な記録をしていくようになってきているが第三者が読んで伝わるように引き続き指導を行う。

<2022 年度総括>

ケアパレットでの記録が始まり少しずつ記録の質が向上してきている。ケースに記録が残っていない、先に記録だけ行い後から実施するといった方法で記録をしていることがあり指導している。コロナウイルスの脅威もまだ続いており対策はしていたがやはり体調を崩してしまう職員もおり職員同士で助け合いピンチを凌いでいる。油断せずしっかりと対策を行い持ち込むことを防いでいきたい。引き続き助け合いの精神を大切にしていく。

<次年度に向けて>

- ・介護技術向上を目指し、入居者が安全で安楽な生活が出来るようにサポート行う。
- ・個別援助計画書の作成の指導を行い変更があったら更新をしていく。
- ・他職種との情報共有や連携の徹底を行う。
- ・ケアパレットでの記録の質の向上を図り新たに入職した新人職員にも指導できるようにする。
- ・リーダーのできる職員の育成を行う。

以上

事業報告書

委員会名称	介護サービス課 4番街		
報告書作成日	2023年 5月 5日	責任者	古屋 倫子
所属職員	4番街職員		
活動期間	2022年4月1日	～	2023年3月31日 12ヶ月間
<p><主な業務内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の日常生活サポート ・担当による利用者の個別介護計画書作成 ・利用者居室環境整備 ・感染症予防への取り組み ・フロア会議の開催 ・ショートステイサービスの実施 <p><年度当初の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の個人差がなく、確実に利用者担当の役割を行えるようにする。 ・介護技術向上を目指し、利用者が安全で安楽な生活を送れるようにサポート行う。 ・職員の連携をしっかりとらえ、円滑にフロア業務が行えるようにする。 ・介護記録の質の向上。 <p><具体的な取り組みと成果></p> <p>利用者担当の役割</p> <p>個別介護計画書の提出が少なく、特に外国籍職員の提出はほぼない状態であった。他の職員がフォローに行っている。日常業務もあり指導も難しい状況であった。家族への連絡はリーダーが行う事が多かった。面会時に利用者の最近の状況や衣類について傷んだものはご家族へお伝えし不足な衣類は持参のお願いを行った。利用者担当が直接の対話は難しいが当日のリーダーが関わり、連絡ノートを活用して職員間へ周知をはかった。</p> <p>介護技術の向上</p> <p>研修など参加し介護技術、知識を身につけている事が出来ていると思われ、委員会活動によっても知識向上につながっていると思われる。内服の確認忘れがありダブルチェックが出来ていない状況があり引き続き指導行う。介護援助サービス業として自覚をもち技術向上を目指していきたい。</p>			

職員間の業務連携

若干の改善点はあるものの、職員間の連携はある程度とることができた。今後もケアが円滑にすすむよう職員間の連携を強化していきたい。

外国籍職員へは連絡ノートにフリガナを振り対応している。施設との情報共有も会議の場・朝礼などで共有は出来ていた。

利用者の変化や業務について上長への報告が遅れたことがあり報告は逐一に行うように指導を行った。

看介記録の質の向上

今年度よりケアパレットでの記録が開始された。開始初めは不慣れな部分もあったが徐々に慣れ日常の様子を記入する事が多くなり字が見やすくなった。まだ不十分なところがあるので今後も指導を行っていく。

感染症への取り組み

コロナ感染によりユニット閉鎖等もあり、施設全体で乗り切った。リビングや居室の換気を引き続き行い、感染対策を行い日常生活を送るよう職員全体で取り組み感染拡大の防止に努めた。感染症への取り組みは施設全体で同じ方向へ向かわなければならない事を改めて感じた。

ショートステイサービスの実施

ショートステイ利用者はリピーターの方が多かった。支援課より入所時の申し送り時に注意事項や介護計画書内容報告を受け、職員間へ周知行うも介護計画書通りに行なえないことがあった。今後は計画書通りに行うよう周知徹底行う。

<2022 年度総括>

今年度より I C T 導入され介護記録の誤字脱字が少なく見やすくなり記入しやすくなった為、日常の様子記録が手書きの頃より多くなったと思われる。一括入力やこれから行う介助を先に入力する等、行ってはいけない入力方法を一部の職員が行い指導している。

体調を崩す職員、腰痛の職員がいたが職員間でフォロー行い乗り切っている。

今後もワンチームで乗り切って行きたいと思う。

新型コロナウイルス感染症は介護サービス援助者として持ち込まないよう努力しなければならない。

今後も新型コロナウイルス感染症に注意しながら生活していくことが重要であるが正しく恐れて正しく行動し、感染症対策に取り組みたい。

<次年度に向けて>

- ・介護技術向上を目指し、利用者が安全で安楽な生活が出来るようにサポート行う。
- ・介護計画書にそって統一した援助を行う。
- ・他職種との情報共有、連携の徹底
- ・利用者担当の役割を明確に行う。

以上

事業報告書

部署名称	介護サービス課(新棟)		
報告書作成日	2023年 5月 10日	責任者	由井 崇之
所属職員	新棟職員		
報告期間	2022年4月1日	～	2023年3月31日 12ヶ月間
<p><主な業務内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者の日常生活サポート・居室環境整備 ・感染症予防の取り組み ・各種研修への参加 ・チューターによる新入職職員の育成 ・リーダーの育成及びフロア利用者、職員の把握 ・フロア会議の開催 ・緊急ショートステイ受け入れに伴う報連相 <p><年度当初の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別介護計画書の作成、計画書に沿ったサービス提供 ・フロア会議の開催及び参加 ・職場環境の整備 ・ケアパレットでの記録、方法の共有 ・8番街緊急ショートステイ受け入れに伴う報連相 <p><具体的取り組みと成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別計画書作成の徹底と計画書に沿ったサービスの提供 <p>個別介護計画書の提出は向上しているが外国籍の方も作成できるように個別の指導は今後も必要である。ご利用者との関りも少しずつ関係性が築けている。ご家族との関係が浅い方もいる。</p> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●計画を立て何が必要なのかも含めてご家族へのアプローチも進めていく。 ●モニタリング後、再度計画書を提出している職員も多くいるので、リーダーが確認の上、早く提出が出来るようにルーティン化していく。計画を立てるだけではなく、その通り行えていないこともあるため、独自のマイルールにならないように今後も注意していく。 <ul style="list-style-type: none"> ・フロア会議の開催及び参加 <p>今年度も人員の兼ね合いで毎月行う事が出来ていない。ただ、開催にあたり、今気付いている事、想っている事、その他どうしたらいいのか等たくさん意見を聞く会議が出来ていた。限られた人員の中ではあるが1人1回は参加する事が出来たが</p>			

課題

●検討事項を含めて今後も開催し参加できるようにしていきたい。そこで出た内容はすぐに報告し、展開に繋げていく。

・職場環境の整備

フロア会議でも意見がでたように、7番街ケアステーションを休憩室にする事を決めている。それに必要な物品の選定は現在進行中。ソファベットの購入を進めているが実用性のある物でサイズなど考慮している。夜勤者が休憩をする際に仮眠を取れる場所がない事が課題で挙げられた為。

課題

●同様に次年度はしっかりと整備化し、働きやすい環境を整えていきたい。

・ケアパレットでの記録、方法の共有

研修を通じて記録システムが導入されている。ケースへの記録など詳細な記録はまだまだ少ない事も課題である。少しずつ慣れてきており、順応している職員も多い。

課題

●間違った入力方法をしている職員へは、直接個別にやり方を伝え、独自のルールにならないように今後もしていきたい。

●出来る人は出来ない人という関係性が出来ている。ケアパレットで分からない事はタブレットを持って聞きに来るなどコミュニケーションの機会も図られているので継続していく。

●これからも新しい情報の入力が必要になってくるので、その都度フロアで共有しながら正しい方法を実践していきたい。

・8番街緊急ショートステイ受け入れに伴う報連相

コロナ感染若しくは濃厚接触の方の受け入れが始まる。勤務表にも配置が組まれている。バイタルサインや注意点など、新棟リーダーも情報共有を図ると共に朝礼時での報告また指示を連絡しながら円滑に対応が出来ていたと感じる。正しい知識でしっかりと感染症対策を学びながら勤務に当たっていた。

<2022年度統括>

- ・4月から主任交代に伴い新棟へと配属となる。
- ・新棟のローカルルールを見直し、常盤台ルールを求めて取り組んだ。
- ・連絡がない、欠勤が続くなど基本的なことを守ることのできない職員もいた。
- ・コロナウイルス感染をする職員もいたが、大規模な感染拡大は防ぐ事ができた。
- ・えも注意過度に勤務が集中して職員の体調管理にも注意を図っていきたい。
- ・ADLの比較的高いご利用者様も多く、多少の欠勤でも協力しながら対応は出来た。
- ・コロナ禍においては、ご家族も居室まで入る事がまだできていない。いつでも居室への面会に来て大丈夫なように環境整備を怠らないように今後も取り組んでいきたい。面会に来られるご家族も多く、その都度近況報告をして信頼関係を築いていきたい。次年度への課題とする。
- ・ご利用者懇談会も実施し様々なニーズが出ている。対応できるニーズへはしっか

りと答えられるようにフロア職員一丸となって取り組んできた。

<次年度に向けて>

- ・介護技術向上、優先順位の理解
- ・個別介護計画書に沿った援助の実践
- ・共有部及びご利用者様の環境整備
- ・感染症予防
- ・ケアパレット入力能力の向上
- ・基本的な報連相の徹底

以上

事業報告書

部署名称	事務課		
報告書作成日	2023年 5月 9日	責任者	奥村 勇太
所属職員	奥村勇太、大元和恵、大槻美代子、日高美香、若林聡、栄養係		
報告期間	2022年4月1日	～	2023年3月31日 12ヶ月間
<p><活動報告></p> <p>今年度も、職務分掌に基づいた役割分担を行い、業務全般の遂行に努めた。 8月より課員を1名増員、体制強化を行った。行政対応をはじめとした各種手続き、物品の手配、補助金の申請等、他部署をはじめ川崎事業所との連携のもと業務を行った。</p> <p>(行政対応)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療対応促進助成を含む補助金申請、各種届出、調査報告書関係について提出を行った。コロナウイルス対応に伴う緊急 SS やかかりまし経費の補助申請等でも滞りなく処理を行う事ができた。 ・12月には横浜市による法人指導監査が実施され、法人の運営から会計についての指導を受けた。口頭指摘や助言のみであり、文書指摘はなかった。 <p>(人事労務関係)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年度の入退職に対する諸手続きを遅滞なく行った。 ・前年度同様外国籍職員の採用が多く、主にベトナムから特定技能を新たに4名迎え、中国より技能実習生も2名受入れた。引き続き横浜市福祉事業経営社会のサポートのもと、入国管理局対応を含めた必要な手続きを行った。 ・福祉事業経営社会より仲介のあった高校生をインターンシップとして受入れ、その後本人希望によりアルバイトとして雇用を開始した。各高校の先生と調整のうえ、今年4月からは常勤職員になることが決定。新卒採用に繋がる結果となった。 ・職員向けの健康診断を実施、全職員対象と、夜勤者健診で年2回実施した。勤務の交代や体調不良等により、思うように受診が進まず、長期間に渡ってしまったことが課題となった。 <p>(経理関係)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種支払関係を遅延なく行うよう努めた。 ・介護職員処遇改善加算及び特定処遇改善加算は例年同様、本俸化を含めた介護職員の待遇向上を行った。 ・横浜市が実施した ICT 化に伴う補助金を活用し、記録システムの強化を行った。 			

- ・新型コロナウイルス発生に伴う衛生物品の確保に関して、かかりまし経費の請求等必要な手続きを行った。
- ・新棟において、横浜市事業による新型コロナウイルス対応型としての緊急SS及び退院支援SS事業を受託しており、1月からはコロナ陽性者の受入れが始まり、計3事業を受託している。ベッド確保料及び実績に応じた経費請求等を行った。
- ・福祉医療機構への借入返済にあたっては、新型コロナウイルスの影響を含めて、前年度同様、今年度も返済猶予の申請を行った。

(その他)

- ・研修、行事への参加、クラブ活動、委員会活動等施設全体で取り組むべきものについては、前年度同様課として積極的に協力をを行った。

<2022年度総括>


- ・施設規模が大きくなった分、関連する事務処理が増えている。一層の整理・合理化を行い、引き続き栄養係との連携強化のもと、補助金を含めた会計業務については、川崎事業所との共同のもと、施設運営の下支えとなっていきたい。

<次年度への申し送り>

- ・既存棟も12年目を迎え、施設の各所で不具合や機器の故障がみられるようになっていく。また、特に家電類については物理的にパーツの供給がなくなる事により、修理不能となる物品も出ていくことにより、入れ替えを行う際の販売店の検討等についても引き続き行っていく必要がある。日常業務に支障が出ないように、また発生の際も影響を最小限にできるように、付随する様々な事態を想定しながら、必要な対応を行っていく。
- ・借入金について、福祉医療機構より返済猶予を受けていたが、体制が落ち着いてきたことから次年度4月より返済再開としている。伴って発生する横浜市への報告、補助金申請等を行う。
- ・健康診断について、2023年度は健診車を手配する。
- ・物価高騰の影響については、コストを考えた物品の見直しや、業者への呼びかけ等で対応していく。
- ・引き続き、人材の確保についてハローワークや広告等を有効活用、安定を図る。
- ・会計処理について、本部会計の強化見直しの予定もあり、会計システムのクラウド化も進めていることから、法人一体で取り組んでいく。

以上

事業報告書

部署・クラブ	事務課 栄養係		
報告書作成日	2023 年 3 月 31 日	主担当・委員長	今井こずえ(主任)
メンバー	柳沢愛美(栄養士) 中嶋正美・鈴木幸一(調理師) 増岡花枝・松浦明美・矢澤義之・金田アナリン・菊池彩(調理員)・調理補助職員(7名)		
活動期間	2022 年 4 月 1 日	～	2023 年 3 月 31 日 12 ヶ月間
<p><活動報告></p> <p>【主な業務内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 給食管理（献立作成・発注・検品など） 2. 調理・盛りつけ・配膳・洗浄（厨房業務） 3. 栄養ケアマネジメントの実施（管理栄養士） （栄養スクリーニング⇒アセスメント⇒計画書作成⇒モニタリング） 4. ミールラウンド（主に昼食、おやつ時中心に行っている） 5. 給食会議、献立会議への参加 6. ケアプラン会議への参加 7. 食事連絡シートの回収・レスポンス 8. 非常食の管理 9. 行事食の企画・実施 <p>【今年度実施した行事食】</p> <p>4 月 ●お花見の会（お花見弁当提供） <実施日：2022 年 4 月 5 日昼食時></p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;">  </div> <div style="flex: 2; padding-left: 10px;"> <p>行事委員会との合同開催で献立会議を行い、百合ヶ丘の山田調理師考案の献立 2 品（海老しんじょう・金目鯛の木の芽焼き）やデザート（オレンジヨーグルトゼリー）を新メニューに加え、さらに鹿児島産の旬の筍を使用した若竹汁など、例年以上に手のこんだ内容のお弁当となった。</p> </div> </div>			

5月 ●端午の節句 皿鉢料理 <実施日：2022年5月5日昼食時>



高知の郷土料理の皿鉢料理を1人前ずつにアレンジして提供。さわらの道明寺蒸し/鶏の若草揚げ、太巻き・稲荷寿司・磯部揚げ3種・錦糸卵のえびしんじょう・スナップエンドウとトマトのサラダ・二色ようかん・清まし汁とした。

6月 ●中華バイキング <実施日：2022年6月29日昼食時>



栄養食事委員会との合同開催で、流しそうめんと交互に行っており、今年度は中華バイキングを実施。金沢よりミシュランシェフをお呼びし、メニューもシェフメニューで北京ダックやチャーハン、デザートでは杏仁豆腐やマンゴープリンを手づくりでお出しした。

8月 ●ビアガーデン <実施日：2022年8月17日>

今年度は行事委員会と合同開催で、お国料理をテーマにベトナム、ラオス、イタリア、日本の料理を屋台でお出ししている。栄養係では食事関係の模擬店の準備・サポートを行い、屋台はサンティさんが作ったティラミスを担当。衛生面に留意しながら、ご利用者に楽しんでいただいた。

9月 ●絆の日 防災食提供 <実施日：2022年9月1日昼食時>

防災の日にちなみ、施設に備蓄してある食品を使って調理をし、ご利用者に提供した。希望制で職員にも提供した。

●敬老祝膳 <実施日：2022年9月20日昼食時>



行事委員会との合同開催で、メニューは炊合せ（木の葉南瓜・筍など）・握り寿司（中トロ・鯛・玉子・穴子）・寿司バイキング（大トロ・中トロなど）・炊き合わせ（かぼちゃ・椎茸など）清まし汁（手まり麩・素麺）・フルーツ盛り合わせ（巨峰・梨）。様々な美味しい料理を召し上がっていただいた。

10月 ●運動会実施日にお弁当 <実施日：2022年10月26日昼食時>



行事委員会との合同開催において、運動会のお弁当をイメージし、2種のおにぎり、玉子焼き、タコさんウインナー、ポテトサラダ、生フルーツなど詰めて提供した。メインは、レジデンシャル百合ヶ丘山田調理師考案の、醤油、柚子胡椒、塩昆布 3種の味付けの“山田の唐揚げ”をメニューに引き続き採用。
のしやランチョンマットで工夫し、運動会直前に雰囲気を楽しんでいただけるよう演出した。

12月 ●クリスマスバイキング <実施日：2022年12月19日昼食時>



栄養食事委員会と合同開催し、「ローストビーフ・ポーク・チキン」の他、理事長お手製の北京ダック、ご利用者様から昨年リクエストいただいたピザが今年もバイキングに登場。また、「ケーキバイキング」もご利用者に大変好評だった。

1月 ●元旦祝膳 <実施日：2023年1月1日昼食時>



おせち料理や雑煮などを提供。
農園でとれた赤・白大根を使ったなますなども取り入れた。
写真はソフト食。常食以外の形態も力を入れて盛りつけを行った。

2月 ●鍋の日 <実施日：2023年1月18日（4番街） 1月24日（2番街）
1月26日（3番街） 1月27日（新棟）>



前回までは2ユニットごとに行っていたが、新棟が増えたため、栄養食事委員会協力のもと、今年度より番街毎に4ユニットずつの開催となる。新棟は、ネオマルシェで実施した。メニューは農園の白菜・ねぎなどをつかって「湯豆腐」を提供、メにはたまご雑炊を用意し、ご利用者様の目の前で調理し、楽しんでいただいた。

3月 ●絆の日 防災食提供 <実施日：2023年3月11日昼食時>

東日本大震災が起こった日であるこの日に、今年度2回目の絆の日を実施。施設に備蓄してある食品などを使って調理をし、ご利用者に提供した。希望制で職員にも提供した。

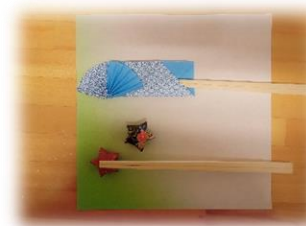
●開設記念祝膳の提供 <実施日：2023年3月26日昼食時>

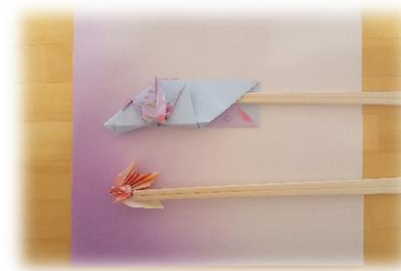


施設の開設記念のお祝いとしてお刺身や天ぷらなどを松花堂弁当箱に入れて提供。お刺身や天ぷらが入っているということで大変喜んでいただきました。箸袋も栄養係の職員が折り紙で作成。鶴の箸袋で提供した。

<2022年度総括>

- ・2020年1月より厨房業務を委託⇒直営へ変更し、約3年が経過した。新棟（60床）が2021年4月よりオープンして2年目となり、2021年度は増床へ対応に追われていたが、今年度は厨房内の業務も安定してきた。人員も比較的定着していたが、怪我などにより長期休暇となる職員もおり、昨年度に引き続き、特定技能実習生など一時的に他部署の応援もいただいた。
- ・昨年度、新棟のオープンに合わせ、強化磁器食器を新たに購入しているが、破損率も低くなっており、また厨房食器の種類も増えたため、メニューに合わせた食器選びもできるようになっている。今後も大事に扱っていききたい。
- ・行事食の実施により、施設生活の中での楽しみを増やすことができた。また行事食においては同じメニューでソフト食やゼリー食を考案・試作を行い、提供することができた。通常の食事とは違った形や盛り付け（お弁当など）で提供することで、視覚からも楽しんでいただけたのではないかと考えている。準備等においては、引き続き同法人のレジデンシャル百合ヶ丘の職員と相互に協力を行い、食数が増えても同じクオリティを維持できるように努力した。
- ・1年を通して様々な「行事食」を提供し、ご利用者様に喜んでいただいた。栄養係の折り紙が得意な職員が、紅葉や鶴の箸袋などを作成し、行事食を彩ってくれた。ご利用者にも浸透しており、来年度も引き続き行っていききたい。





- ・レジデンシャル百合ヶ丘との合同給食会議を3か月に1度行った。お花見弁当など献立の内容についての話し合いや、試食会なども昨年度に引き続き行った。今後も、双方の意見を取り入れながら、施設の食事をよりよいものにしていきたい。
- ・絆の日と称し、非常食を年度で2回提供した。いつ起きるかわからない自然災害だが、いかに慌てずスムーズに準備ができるかも課題である。誰もがすぐに対応できるよう、わかりやすいマニュアルの作成も課題として取り組んでいきたい。
- ・ご意見箱やご利用者様との懇談会をはじめ、ご利用者、職員から食事に関するご意見を多数頂いた。今後も現場の声を反映した、よりよい食事提供を目指したい。

<次年度への申し送り>

1. 栄養ケアマネジメントの実施（ご利用者の食事摂取状況の把握）
2. 施設の食に関する行事、毎日の献立の中での行事食・お楽しみ食の実施
3. 嗜好など食事に関するアンケートの実施
4. 食器や厨房機材の管理・購入
5. 各種会議への参加（給食・献立）
6. 非常食の管理（賞味期限に注意する）
7. 食形態・内容などの改善

以上

事業報告書

部署名称	洗濯エイド		
報告書作成日	2023年 5月 8日	責任者	薄倉 由美子
所属職員	内田 裕子、木村 明美、山口 治恵		
報告期間	2022年4月1日	～	2023年3月31日 12ヶ月間
<p><主な業務内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各番街衣類の回収、洗濯、乾燥及び番街配布 <p><付帯業務></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新規利用者、居室変更に伴う名札の作成 2. ご利用者衣類の補修、ウエストゴムの交換 3. イベントに伴うテーブルクロス等の洗濯、アイロン掛け 4. 洗濯室内、外の清掃・整備 <p><年度課題></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新規ご利用者及び居室の変更に伴うスムーズな対応 2. ショートステイから本入所への変更に伴うスピーディーな受入体制 3. 同姓名の方の確認の徹底で配布間違いの根絶 4. チームの和を大切にし、効率的な仕事の進め方を考え、リスペクトしあう職場風土作り <p><具体的取り組みと成果></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 居室リストの活用により、比較的スムーズに行う事ができた。 2. やはり居室リストの活用により、スムーズに行えた。又、ショートステイのリストも更新毎に配布され、受入れもスピーディーに出来た。 3. 前年に引き続き、同姓者の氏名の一覧を作成し、間違い防止に努めた。 4. 新しい体制のもと、既存棟と新棟連携を取りながら、仕事を進めてきたが、コミュニケーション不足により、お互いに誤解をしていた所があり、2月上旬にミーティングを開催、お互いをリスペクトする気持ちに変化してきたように感じる。 <p><次年度の提案></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本来業務以外の仕事を積極的に行っていく（誘導、清掃等） 2. より一層、お互いにリスペクトし、既存棟・新棟の協力、協働を緊密に行っていく、温もりのある職場作りを目指したい。 <p style="text-align: right;">以上</p>			

事業報告書

部署名称	クリーンエイド		
報告書作成日	2023年 5月 10日	責任者	里吉 昭雄
所属職員	里吉 昭雄、三門 真理子、永野 たかし、齋藤 純		
活動期間	2022年4月1日	～	2023年3月31日 12ヶ月間
<p><主な業務内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者様が快適に過ごせる様に清掃の継続 2. 利用者様の家族が安心して利用できる環境の整備 3. 職員が働きやすい場所作りの展開 4. 感染症防止活動に対して協力 <p><付帯業務></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イベントの参加 <ol style="list-style-type: none"> 1) 節分行事では豆まき後の清掃 2) サマーフェスタ（ビアガーデン）における出店 3) 運動会等の運営補助 4) お正月・クリスマスでの食事提供補助 <p><年度課題></p> <p>ご利用者やご家族には少しでも気持ちいい環境で過ごせて又各職員には働きやすい職場を目指していますが、まだまだ満足がいくまでには至っていません。引き続きよりよい環境にして行く必要があると思います。範囲が広いので中々手がまわらない所があり効率を考えなければならないと思います。又後半にメンバーの法制度上での就業規制で残りのメンバーで仕事を補わなくてはならず清掃の質の向上が必要とだった。</p> <p><具体的な取り組みと成果></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 職員が通勤時着用していて出社時廃棄したマスクの回収廃棄⇒毎日 2. トイレは1番街は毎日、2～4番街までは月～土まで清掃 5番街は日曜と担当者休みの時6、7番街は担当者休みの時 3. ご家族及び職員トイレの拭き清掃はアルコール、ご利用者の拭き清掃はぬるま湯 4. 1番街の職員入り口から5番街までの床をダスター及びモップで清掃 手すり、エレベーター内、エレベーター扉、玄関扉、インタフォン、自販機釦、テーブルや椅子等すべてアルコールで拭き掃除⇒毎日 5. ラジオ体操（利用者様利用）と朝礼用椅子を並べる⇒毎日 			

6. 2番街から4番街までの共用スペースの床はダスター及びモップで手すり、エレベーター扉、テーブルや椅子、居住者様への入り口扉等は全てアルコールで拭き掃除、職員階段はダスター、手すりはアルコール⇒月～土曜日に実施
7. 6番街から7番街までの共用スペースの床はダスター及びモップで清掃手すり、エレベーター扉、利用者様への入り口扉等は全てアルコールで拭き掃除⇒月～土曜日に実施
8. 1番街のロッカーのアルコール消毒⇒毎日
9. 歩道、バラ園、駐車場、コパンの丘等の雑草除去⇒都度実施
10. 施設周辺の側溝の清掃⇒年2回実施
11. 非常通路の清掃
⇒落ち葉は都度、手すりも都度、床のデッキブラシ洗浄は都度実施、
網戸は年2回、
ご利用者のガラス扉のサン、レール溝は年数回、くもの巣除去は都度
12. 1番街、2番街中庭（裏庭）の清掃⇒、落ち葉は都度清掃、床はデッキブラシ年数回実施
13. 車椅子清掃⇒ウォーターガン洗浄機で都度実施
14. ごみステーションの清掃⇒ごみボックスは年2回漂白剤で清掃
15. 受水槽の清掃⇒タンク周辺、タンク下の落ち葉は都度、床は高圧洗浄を1回実施
16. クリーンルームのシンク、床清掃⇒都度実施
17. イベントの参加⇒節分行事ではまめまき後の清掃、サマーフェスタは出店運動会の種目毎の用具片付け補助

<次年度に向けて>

1. 清掃作業の見直し⇒新入社員によるメンバー増でなるべく早く戦力となるように指導する必要がある。
2. 仕事の内容と個人の能力をマッチングさせることで効率を図る。
3. ポリッシャー活用によるモップ清掃の負荷低減により他作業を取り込む。
4. 無駄無理を再度見直し見えるか等による更なる仕事の効率化

以上

事業報告書

部署名称	リネンエイド		
報告書作成日	2023年 5 月 8 日	責任者	近藤 真奈美
所属職員	池田さと美、小澤順子、谷川アイリン(2022.5.31 まで)、安田輝美、 牟田久美子、安田葉子(2023.11.31 まで)、福田幸子(2023.11.1～) 近藤真奈美		
報告期間	2022年 4 月 1 日	～	2023年 3 月 31 日 12 ヶ月間
<p><主な業務内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者様全居室のリネン交換と清掃(月～土 11:00～15:00、11:00～16:00) ・2、3、4、6、7番街共有トイレの清掃(月～土 14:00～15:00) ・2～4番街リネン庫の整理、クリーンルームの清掃 <p><付帯業務></p> <ul style="list-style-type: none"> ・月初めに、居室の電気製品使用調査 ・池田さんによる、手作り品の作成(長クッション・柵カバー、施設販売品等) ・行事手伝い(花見弁当手伝い、節分、鍋の日、運動会、クリスマス、祝い膳等) <p><年度課題></p> <ol style="list-style-type: none"> ①谷川さんの長期休み、異動により、週1のリネン交換をどうこなすか。 ②10月からの法改正により、社保加入対象外の勤務時間しか働けない。 ③コロナ禍でご家族が入室出来ない事や、入居者様の症状の進行による、私物の劣化不整頓を改善したい。 ④施設購入品の洗濯物が、業者行き洗濯物に出されてしまうのを防ぐ。 <p><具体的取り組みと成果></p> <ol style="list-style-type: none"> ①前年度から勤務時間を増やしたり、トイレ時間を活用したりの対処に加え、施設長にご相談し、週1のリネン交換から週またがっての作業になる了承をいただき、落ち着いて作業が出来るようになった。 ②在籍メンバーの勤務時間が増やせなくなってしまったので、週またがっての作業と増員で対処出来ている。 ③エイド会議で相談し、気が付いた時点で主任に相談し対処し、少しずつ改善出来ている。 ④新人研修や実習時、レジュメを渡し伝えてもなかなか改善されないため、池田さんが中心になり、5月よりポスターを掲示し効果があるか実践中。 <p><次年度の提案></p> <p>クリーンルームの汚れが気になるので、トイレ掃除時間をうまく活用し、清掃出来るよう心掛けたい。エイド間で、共有連携し、効率よく出来たらと思います。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>			